

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<学士課程>

観点 5-1-①: 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到る状況】

教育課程の編成方針は、本学学則において、各学部が教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、教養教育に関する授業科目及び他の学部が開設する授業科目も含めて体系的に編成するものと定め、教育課程を、外国語科目等の教養教育及び専門基礎科目等の専門教育により編成している【資料 5-1-①-A】。さらに、学位プログラムにおいて単に学位記の名称単位でなく、その内容の専門性に応じて学科・コース等毎にカリキュラム・ポリシーを策定している【資料 5-1-①-B】。

資料 5-1-①-A 学士課程における教育課程の編成方針及び編成方法

学則第 34 条及び 35 条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000189.htm>

資料 5-1-①-B 各学部のカリキュラム・ポリシー (CP)

学部・学科等名		カリキュラム編成方針及び学位授与の方針
文学部	総合人間学科	
	人間科学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/ningenkagaku
	社会人間学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/syakainingengaku
	地域科学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/chiikikagaku
	歴史学科	
	歴史資料学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/rekishisiryogaku
	世界システム史学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/sekaishi
	文学科	
	東アジア言語文学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/e-asianbungaku
	欧米言語文学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/oubeibungaku
	超域言語文学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/choetubungaku
	コミュニケーション情報学科	
	コミュニケーション情報学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/bungakubu/communication
	教育学部	小学校教員養成課程
中学校教員養成課程		
国語		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-kokugo
社会		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-syakai
数学		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-suugaku
理科		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-rika
音楽		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-ongaku
美術		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-bizyutsu
保健体育		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-hoken
技術		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-gizyutsu
家政		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-kasei
外国語(英語)		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-english
教育学科		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/kyouikugaku
心理学科		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/shinrigaku
特別支援学校教員養成課程	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/tokubetushien	

	養護教諭養成課程	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/yougokyou
	地域共生社会課程	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chikikyosei
	生涯スポーツ福祉課程	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakubu/chugaku-sports
法学部	法学科	
	法学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hougakubu/hougaku
	公共政策コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hougakubu/koukyoseisaku
理学部	理学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/rigakubu/rigaku
医学部	医学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/igakubu
	保健学科	
	看護学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hokengaku/kangogaku
	放射線技術科学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hokengaku/housyasen
	検査技術科学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hokengaku/kensagizyutu
薬学部	薬学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/yakugakubu/yakugakubu
	創薬・生命薬科学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/yakugakubu/souyaku
工学部	物質生命化学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kougakubu/busituseimei
	マテリアル工学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kougakubu/material
	機械システム工学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kougakubu/kikaisystem
	社会環境工学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kougakubu/syakaikougaku
	建築学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kougakubu/kenchiku
	情報電気電子工学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kougakubu/johodenki
	数理工学科	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kougakubu/suurikougaku

出典：熊本大学公式ウェブサイトから抜粋

【分析結果とその根拠理由】

教育課程の編成方針・編成方法については、本学学則に基づき各学部が教育上の目的を達成するために必要な授業科目等を体系的に編成し、教養教育及び専門教育により編成している。また、学位授与方針において設定された知識・能力等を修得し、掲げる人材育成像の養成に適した教育課程を編成するためカリキュラム・ポリシーを策定している。

以上のことから、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められていると判断する。

観点5-1-②： 教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。

【観点に係る状況】

学部のコースや課程等に分けて策定しているカリキュラム・ポリシー【前掲資料5-1-①-B】に基づいて授業科目が配置され、教育課程が体系的に編成されており、教養教育に関する科目と専門教育の科目により構成されている。平成23年度より教養教育を含む学士課程教育全体のカリキュラムを見直し、「豊かな教養」、「確かな専門性」、「創造的な知性」、「社会的な実践力」、「グローバルな視野」、「情報通信技術の活用力」、「汎用的な知力」の7項目の期待される学習成果を設定し、全授業科目のこれら7つの学習成果への対応については、シラバスにも記述している【後掲資料5-2-③-B】。教養教育は、大学での主体的な学習方法や共通して身に付ける知識を学ぶ共通基礎科目、ITを活用するための情報科目及び理系基礎科目、グローバル社会に必要なコミュニケーション能力と海外事情に関する基礎知識を提供する外国語科目、教養科目、社会連携科目及び開放科目から構成されている【別添資料9】。また、専門基礎科目及び専門科目からなる専門教育の特徴は、学部の特性に応じ、所

属する学問分野の知識や技術の習得を目指すものとなっている【別添資料 10】。各学部の教育目的、学位授与方針に沿って特徴・特色を生かすように教養教育及び専門教育の授業科目が編成され、学部・学科ごとに定められた所定の単位を修得することにより卒業し、学士の学位が授与される【資料 5-1-②-A】。さらに、各学部においては学位授与方針にある知識・能力等の習得に関してカリキュラム・ポリシーに基づき、学科やコースごとの履修方法を規定するとともに、履修モデルやカリキュラム・マップを作成し、教育課程における履修方針や順序、科目配置等について明確にしている。【資料 5-1-②-B、C】。

さらに、学習の段階や履修の順序を整理してより体系的に教育課程を理解できるようにするため、平成 26 年度中に構築した科目ナンバリングのコード体系に基づき、平成 27 年度からコード体系の整備が完了した部局から順次導入することとしている【資料 5-1-②-D】。

別添資料 9 教養教育の特徴

別添資料 10 専門教育の特徴

資料 5-1-②-A 学位(学士)の授与要件

学部	学位(学士)に付す専攻分野の名称	学科(課程)・専攻	単位数等				
			教養教育	専門教育	自由選択科目	卒業要件単位	
文学部	学士(文学)	総合人間学科、歴史学科、文学科、コミュニケーション情報学科	34 単位以上	84 単位以上		124 単位以上	
		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/bungakubu					
教育学部	学士(教育学)	小学校教員養成課程	29 単位	80 単位	16 単位	125 単位	
		中学校教員養成課程		80 単位又は 84 単位	12 単位又は 16 単位		
		特別支援学校教員養成課程(小学校普通免許状を基礎)		88 単位	8 単位		
		特別支援学校教員養成課程(中学校普通免許状を基礎)		82 単位～ 88 単位	8 単位～ 14 単位		
		養護教諭養成課程		81 単位	15 単位		
		地域共生社会課程		74 単位	22 単位		
		生涯スポーツ福祉課程		80 単位	16 単位		
http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/kyoikugakubu							
法学部	学士(法学)	法学科	32 単位以上	94 単位以上		126 単位以上	
		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/hougakubu					
理学部	学士(理学)	理学科	47 単位	66 単位	11 単位(本学の全授業科目)	124 単位	
http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/rigakubu							
医学部	学士(医学、看護学又は保健学)	医学科	38 単位	213 単位		251 単位	
		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/igakubu					
		保健学科					
		看護学専攻	28 単位	104 単位		132 単位	
		放射線技術科学専攻	24 単位	102 単位		126 単位	
検査技術学専攻	24 単位	100 単位		124 単位			
http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/hoken							
薬学部	学士(薬学、創薬科学又は生命薬科学)	薬学科	30 単位以上	163 単位		193 単位以上	
		創薬・生命薬科学科	30 単位以上	98 単位以上		128 単位以上	
http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/yakugakubu							

工学部	学士(工学)	物質生命化学科	40 単位	90 単位	/	130 単位
		マテリアル工学科	41 単位	84 単位		125 単位
		機械システム工学科	41 単位	84 単位		125 単位
		社会環境工学科	41 単位	87 単位		128 単位
		建築学科	41 単位	83 単位		124 単位
		情報電気電子工学科	40 単位	90 単位		130 単位
		数理工学科	40 単位	84 単位		124 単位
		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/kougakubu				

出典：熊本大学公式ウェブサイトから抜粋

資料5-1-②-B 履修モデルの例

○文学部（総合人間学科・人間科学コース・認知哲学履修モデル）

科目区分		科目名(開講年次)	単位数	合計	備考
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目(14)	必修科目	文章作成演習 (1年) 2 英語コミュニケーション (2年) 2	84~90	※ 単位互換により、他の大学又は短期大学において修得した単位を含むことができる。
		選択必修科目	哲学概論を含む総合人間学科1年次開講の概論科目 (1年) 6 文学部入門 (1年) 1 21世紀市民学入門 (1年) 1 実践英語 (2年) 2 情報処理A (2年) 2 情報処理B (2年) 2 ギリシア語 (2年) 2 ラテン語 (2年) 2 キャリア支援A (2年) 2 キャリア支援B (3年) 2		
	基礎科目(10)	必修科目	人間科学基礎演習 (2年) 2 認知哲学概論Ⅰ (2年) 2 認知哲学概論Ⅱ (2年) 2 論理学Ⅰ (2年) 2 認知哲学演習Ⅰ (2年) 2		
		必修科目	認知哲学特殊講義 (2年/3年) 4 認知哲学演習Ⅱ (3年) 6 課題研究Ⅰ (3年) 2 課題研究Ⅱ (3年) 2 課題研究Ⅲ (4年) 2 卒業論文 (4年) 8		
	展開科目(30)	選択必修科目	芸術学特殊講義 (2年/3年) 2 論理学Ⅱ (3年) 2 芸術学演習Ⅱ (3年) 2 芸術学実習Ⅰ (3年) 2 芸術学実習Ⅱ (3年) 2 心理学特殊講義 (2年/3年) 2 人間科学上級演習 (4年) 2 基礎統計学 (2年) 2		
		選択科目(30~36)	※ 教職科目・学芸員資格科目(一部を除く)を除く専門教育の科目及び他学部の専門科目(教職科目を除く)		

(注)
教養教育の単位数との合計が124単位以上になるように履修すること。

出典：文学部学生便覧より抜粋

○工学部社会環境工学科

表2-5 社会環境工学科履修モデル(修得単位基準)

学年 学期	1年		2年		3年		4年		卒業要件	
	前学期(25単位)	後学期(25単位)	前学期(27単位)	後学期(27単位)	前学期(履修制限)	後学期(履修制限)	前学期	後学期		
教 養 教 育	基礎7セミナーベータシラバス	2	情報処理基礎	1	情報処理基礎	1			19以上	
	情報基礎A	1	英語A-1	1	英語C-1	1				
	英語A-1	1	英語A-2	1	英語C-2	1				
	線形代教1	2	線形代教2	2						
選 択	総学分割	2	総学分割	2	教養科目、社会連 関科目など	4			22以上 (41以上)	
	教養科目、社会連 関科目 目など	8	教養科目、社会連 関科目 目など	8						
教養教育小計	17	15	7	6	0	0			45	
工 学 英 語 (必 修)					工学基礎	1	工学基礎II	1	2以上	
					1 情報処理基礎	1	1 工学基礎	1		
					2 社会の基礎知識	1	2 社会環境工学実験	2		
					2 環境工学の基礎	2	1 社会環境工学	1		
					2 社会環境工学概論	2	2 社会環境工学	2		
					2 地球環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
必 修					1 プロダクトデザイン	1	1 工学基礎	1	53以上	
					2 社会の基礎知識	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学の基礎	2	2 社会環境工学	2		
					2 地球環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
					2 環境工学	2	2 社会環境工学	2		
専 門 必 修 履 修 上 限 位					8	6	15	16	5	卒業研究
					25	21	22	22	5	
					25	25	27	27	4	
選 択 必 修					物理の世界	2	2 環境工学	2	6	
可 能 取 得 単 位 合 計	25	23	27	27	27	27	27	27	117	
総単位数	162	128								

注1. 前期履修科目で、1年次～3年次の間の1科目以上を履修することが必要。
 注2. 後期履修科目で、1年次～3年次の間の1科目以上を履修することが必要。
 注3. 前期履修科目で、2年次～3年次の間の1科目以上を履修することが必要。

出典：工学部社会環境工学科学生の手引きより抜粋

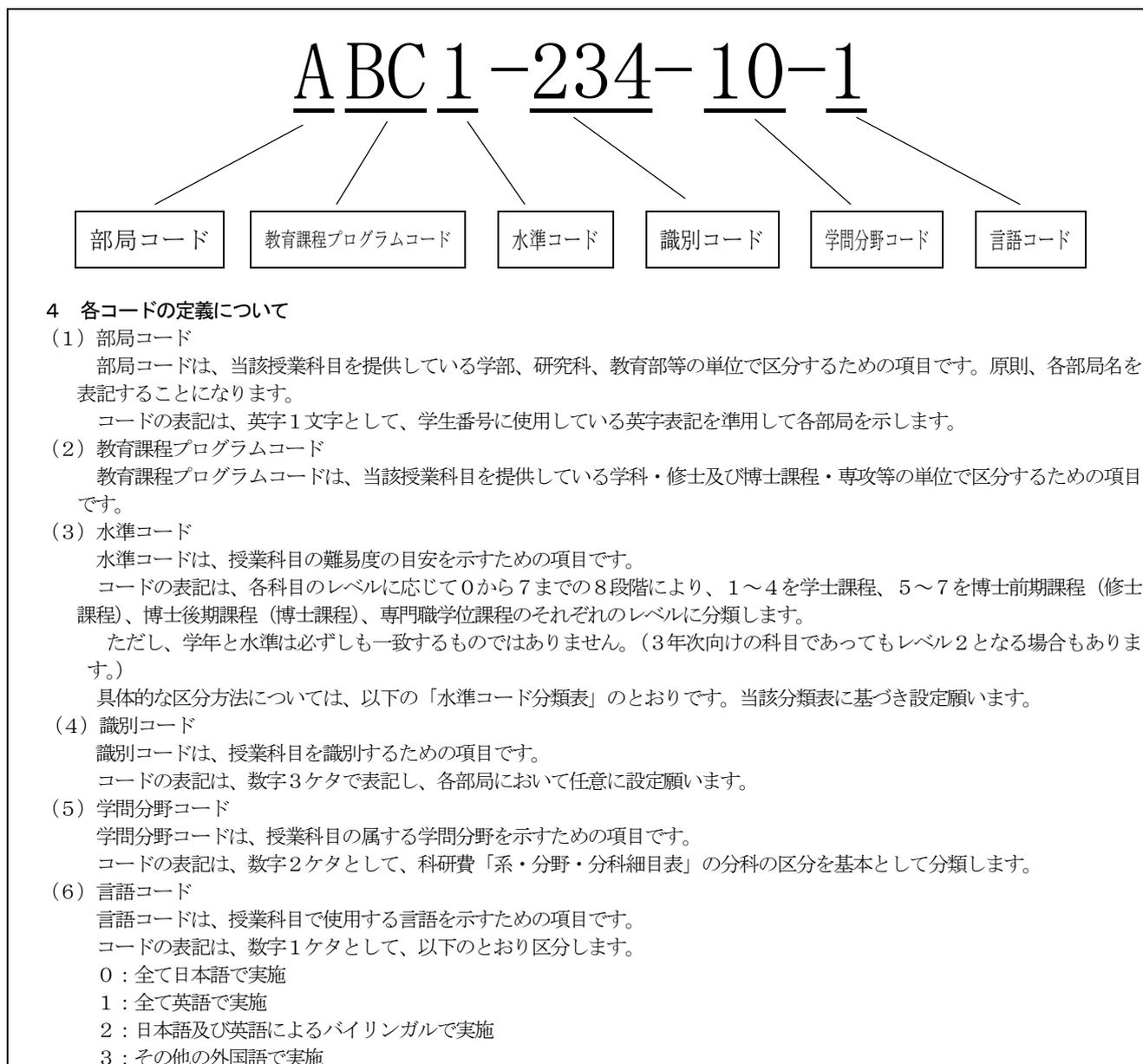
資料5-1-②-C カリキュラムマップの例

○文学部コミュニケーション情報学科							
学習成果に基づく学士課程教育プログラム カリキュラムマップ							
学部:	文学部	「教育プログラム別学習成果」欄の番号は、熊本大学HPの「学位授与の方針」から、各学部のコース、課程等の「学習成果」の各項目毎					
学科:	コミュニケーション情報学科	熊本HP (http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/index)					
コース:	コミュニケーション情報学コース						
学習成果	教育プログラム別 学習成果	必修・選択	1年次		2年次		
			前学期	後学期	前学期	後学期	
学習成果 1 豊かな教養	1-①	必修	ベーシック(1)				
		選択	教養科目(2)、社会連携科目(2)		教養科目(2)、社会連携科目(2)		
学習成果 2 確かな専門性	2-①	必修	コミュニケーション情報学入門(2)80000	コミュニケーション論(2)80010			
		選択					
	2-②	必修	コミュニケーション情報学入門(2)80000	コミュニケーション論(2)80010			
		選択					
	2-③	必修		コミュニケーション論(2)80010			
		選択					
	2-④	必修	コミュニケーション情報学入門(2)80000				
		選択					
	2-⑤	必修					
		選択					
2-⑥	必修						
	選択						
2-⑦	必修		文章作成演習(2)96006	文章作成演習II(2)90023			
	選択						

出典：文学部コミュニケーション情報学科調査資料を基に作成

資料5-1-②-D 科目ナンバリング体系

熊本大学科目ナンバリング	
1 科目ナンバリングの導入について	<p>科目ナンバリングとは、授業科目を水準等に応じた特定の番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を示し、各教育プログラムにおけるカリキュラムの体系的性を明示する仕組みです。</p> <p>本制度の導入については、中央教育審議会の各種答申（「学士課程教育の構築に向けて」、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」）等により、教育改革への対応策として導入の必要性が求められているところです。</p> <p>また、本学の第二期中期目標・中期計画においても、教育課程の体系化を進める取組みとして、本制度の導入について検討することとしており、今後の大学のグローバル化を推進する上でも海外で一般的に普及している本制度の導入に取組むことは喫緊の課題となっています。</p>
2 科目ナンバリングの導入の目的及び期待される効果について	<p>(1) 教育プログラム、難易度、学問分野を明示することで、学修の順次性を確認でき、計画的な学習が可能となります。（シラバス等に科目ナンバリングコードを設定することで、履修すべき科目等の選別が容易になります。）</p> <p>(2) 他学部（他学科）、他大学との授業科目レベルの比較の参考となり、海外からの留学生にとっても履修する科目の判断が容易になります。</p> <p>(3) カリキュラム点検のツールとして活用でき、体系的な教育プログラムの実現に向けた改善を実施するきっかけとなります。</p> <p>(4) ナンバリングを学務系システムへ反映することで、管理部門（教務事務担当）においても各種統計や資料作成時にナンバリングの各項目をキーとしてデータを抽出することが容易となります。</p>
3 本学における科目ナンバリングの形式について	<p>本学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学部・学科等、関連する学問分野、難易度、授業で使用する言語を示すコードにより構成します。</p>
<熊本大学科目ナンバリングの形式>	



出典：平成26年度第5回教務委員会資料

【分析結果とその根拠理由】

本学学則に定めるとおり、本学の教育課程は、教養教育及び専門教育により構成されている。全授業科目について当該科目の履修により修得できる7つの学習成果の割合を示すことができる設定になっており、各学部の学科・コース等ごとに定められたカリキュラム・ポリシーに基づいて、教育目的、学位授与方針に沿って各学部の特徴・特色を生かすよう体系的に編成され、履修モデルやカリキュラム・マップ等により明確にしている。これらにより各学部生は、学部・学科ごとに定められた所定の単位を修得することにより卒業し、学士の学位が授与される。

以上により、教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっていると判断する。

観点 5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

本学では、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮し次のような教育を実施している。学則第 43 条において外国の大学を含む他の大学等との単位互換、学則第 45 条において入学前の既修得単位の取扱い、学則第 51 条において転部、転科等を定め実施している。また、教育学部においては、子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとした教育実践研究指導法演習（フレンドシップ事業）、熊本市教育委員会と連携して不登校児童・生徒の相談相手になる教育臨床体験演習（ユアフレンド事業）のボランティア活動について授業科目に組み込み、単位を付与している。医学部医学科においては、医学・生命科学における解決すべき研究テーマについて深く追究する大学院の授業科目の単位を学部生の時に取得できるプレ柴三郎コースを設け、大学院進学前の先取り履修ができ、さらに e ラーニングによる受講が可能となっている。法学部では熊本県内の官公庁や有力企業等で職業体験を行うインターンシップで単位を認定している。授業内容においては、授業改善アンケートを実施し、前年度とのアンケート結果の比較・分析や各部局等がこれまで反映してきた授業改善における優れた取組について紹介し各部局教員の授業改善のための参考として周知している【別添資料 11】。その他、文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等に採択されており、例えば平成 21 年度に採択された大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラムの「学習成果に基づく学士課程教育の体系的構築」は、学士課程全体で獲得すべき学習成果に基づき、組織的に教育の質を保証する学士課程教育を構築するもので、学士力の本質を創造的知性と実践力と捉え、幅広い学習成果を体系的に教育課程に反映していくという取組である。当該事業で開発された汎用スキル要素を涵養する「ベーシック」やコミュニケーション能力の育成を図る「基礎セミナー」等の科目は、財政支援期間終了後も学内予算措置によりアカデミック・ライティングの指導者などを雇用し、初年次の教養教育の共通基礎科目として実施している。また、平成 24 年度に採択された大学間連携共同教育推進事業「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」では、熊本県内 4 大学が連携し、各大学の特徴を活かした減災型地域社会のリーダーを養成するもので、具体的には、4 大学共通の必修科目、各大学が自然科学、社会科学、社会福祉、保健科学の 1 つの分野を担当し開講する選択必修科目を履修し単位を取得することで、減災型地域社会リーダーを認定する【資料 5-1-③-A】。さらには、外国語によるコミュニケーション能力や海外の文化・日本文化に係る能力・知識を学生に修得させることに加えて、従来のリベラルアーツとしての英語教育にとどまらず、新たな英語教育を検討するための基礎資料とするため、平成 25 年度入学生から、TOEIC-IP テストを入学当初及び 2 年次末の 2 回実施している【別添資料 12】。

また、平成 25 年 4 月には、日本で唯一の爆発実験施設を有し、衝撃超高压や超重力など極限環境を用いた物質科学研究を行ってきた衝撃・極限環境研究センターとパルス電磁エネルギー発生・制御技術を背景とした独創的な生命科学研究を行ってきたバイオエレクトロクス研究センターの両者を発展的に融合し設置されたパルスパワー科学研究所において、物質及び生物にとって極めてユニークな極限環境による研究は、新規物性の開拓研究等国内外で独創的な研究としての高い評価を得ており、これを核にグローバル COE プログラム等が採択されている。これらの独創的な研究は、学部の教育課程の編成に組み込まれており、例えば工学部 3 年次における「高電圧パルスパワー工学」については、環境・リサイクル・医療福祉・バイオ等多くの応用分野を持つパルスパワー技術について、その基礎から応用までを教授している。

別添資料 11 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮した教育課程の編成等

資料 5-1-③-A 文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等

学部等名	期間	事業名	実施状況（支援終了後展開を含む。）
全学	H21～23	大学教育・学生支援推進事業 【テーマA】大学教育推進プログラム	学士課程全体で獲得すべき学習成果に基づき、教養教育と専門教育の壁を超えた教育課程を設計するカリキュラム改革により、組織的に教育の質を保証する学士課程教育を構築するものである。「学士力」の本質を「創造的知性＋実践力」と捉え、「専門的要素」「一般教育的要素」「特定スキルの要素」「汎用スキルの要素」「コンピテンシー的要素」から成る幅広い学習成果を体系的に教育課程に反映していく。また、学習成果の修得状況を蓄積するeポートフォリオシステムを開発し、学生が履修や就職活動に当たり、また、教員が指導に当たり、活用できるようにする。その利用を通じて、学生・教員双方が学習成果とカリキュラムとの結び付きを常に意識することが期待できる。現在は、「学士課程教育に期待される学習成果」を策定し、当該学習成果の獲得を目指した教育を行っている。平成26年度中に、学習成果の把握・検証に資するため「学習成果可視化支援システム」を構築し、学習成果の修得状況を蓄積する。
工学部	H24～28	大学間連携共同教育推進事業（地域連携）	少子高齢化が進む中、減災型地域社会の継続的な実現に向け地域社会の中核を担うべき大学に求められる教育は、能動的学習能力と実践力を兼ね備えた人材の育成である。そのためには、異なる専門の基礎を習得した学生らが、教員とともに地域に入り、実際の地域の課題を行政や住民等との共同作業を通して能動的学習力を体得する実践教育の場作りが必要である。本事業では、熊本市内の国公立の4大学がそれぞれ教育資源を活かした連携により、「減災型地域社会の創成に向けた地域の拠点」を全国に先駆けて、次の具体的な取組を行う。 1) 減災型地域社会をテーマとした共同学習プログラムの構築 2) 単位互換・地域運営協議会・eポートフォリオを活用した教育質保証 3) リーダー認定制度創設 熊本政令指定都市内の4大学が本事業を通じた連携により「地域の知の拠点」を構築することで継続性のある地域への貢献が実質化できる。
薬学部	H20～22	質の高い大学教育推進プログラム	環境の時代を見据えた職業観のパラダイムシフトを促す意図で、「エコファーマを担う薬学人」という新しい職業人の養成を、視野拡大、自主性、労りの心、国際性をキーワードに試みた。具体的には、学内マニフェスト制度やリサイクルシステムの構築、体験型環境・薬学教育、公害・薬害被害者との交流、中央官庁・企業・海外での研修、講演・シンポジウム等を実施した。エコファーマ推進委員会での事後評価を行い、支援期間中の経験を生かして、学内経費で継続を行う。特に効果のあったプログラムである水保での体験学習は正規の授業の中に取り込み継続する。関連して、引き続き、授業科目の一部をエコファーマ科目として認定し、これらの授業科目を一定数以上受講し、下記シンポジウムを聴講し、薬用植物観察会などエコファーマ活動に参加し、一定の基準を満たした学生にエコファーマ修了認定証を付与する。また、措置される予定の学内予算の規模により、環境・福祉関係の先端研究や現代的課題に関するシンポジウムを年に1～2度開催したい。さらに、外部予算の獲得を目指し、予算が獲得された暁には、海外研修の成果を生かしてラオスの保健科学大学との共同による薬用資源探索や環境衛生教育の充実を目指し、薬学生の視野の拡大や実践力の醸成に繋げたい。加えて、22年度に設置した薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンターを活用し、薬用植物観察会、希少薬用資源の保護、生物多様性の保全など、地域貢献と合わせた活動を行う。
法学部	H20～22	質の高い大学教育推進プログラム	本事業は、九州管内の4つの大学が連携し、フィールドワークを基盤とした学生主導型の合同ゼミを開催し、山積する地域課題の解決に資する人材の育成を図る事業である。いわば「地域活性化人材」の育成を目指しており、具体的には①地域課題の発見・把握のプロセスを身につけている、②情報発信力に基づいた企画立案力を身につけている、③プロジェクト遂行のためのマネジメント能力を身につけているという人材像を目標とした事業である。財政支援期間は22年度で終了したが、元来この合同ゼミは2001年から続けて

			おり、年に一回のフィールドワークと討論中心の合同ゼミとそのための事前合宿という流れは従来どおりである。しかし、財政支援がない場合の問題点として、学生同士の事前の打合せなど経済的に難しくなったこと、外部からの講師などの招聘が限定されること、これまで学生の勉強も兼ねて発行してきたニューズレターの継続が困難になったことが挙げられる。法学部では、こうした取組みが先細りにならないように、新たに「プロジェクト推進室」を設置し、合宿ゼミやフィールドワーク、インターンシップ、関連シンポジウムを積極的にを行っている。
全学	H26～30	地（知）の拠点整備事業	本事業により、「地（知）の拠点」としての大学改革を加速させる。その方法として、これまでの熊本県及び包括連携を締結した市町村等との実績を活かしながら、さらに全県的な地域の課題を全学的な地域課題解決学習に結びつける。同時に、COC 推進機構の下に各学部、大学院、機構、教育研究施設等の組織的な結集を図り、地域課題解決型研究や地域貢献の取り組みを強化する。この結果、高等教育の恩恵を県内に広く波及させ、大学で学ぶ学生が地域社会にいることの価値を高め地域活性化の拠点となる教育改革及び大学のガバナンス改革に繋げる。全新生を対象とした地域志向の教養教育科目「熊本学（仮）」及び地域志向科目群の導入を計画している。COC 事業の採択による事業推進により、これまでの取り組みの体系化と強化を進める機会として活用し、補助期間終了後は、自主財源、競争的資金の獲得、自治体、経済界との連携により継続的な取り組みを行う。

出典：各出局等調査資料を基に作成

別添資料 12 TOEIC-IP テスト結果

【分析結果とその根拠理由】

本学では、教育課程の編成又は授業科目の内容において、語学教育の外部試験の単位認定、単位互換や大学院の授業科目の先取り履修など学生の多様なニーズ、独創的な研究など学術の発展動向にかかる教育課程への還元、ボランティア活動の授業科目への組み込みや文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業にかかる学士課程教育の構築あるいは減災型地域社会リーダー養成など社会からの要請等に配慮しており、各学部及び教養教育において実施している。

以上のことから、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮していると判断する。

観点 5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

【観点に係る状況】

本学の教育目標及び各学部・学科・課程等の教育目的に基づき、各学部規則において授業科目を講義の他、演習・実習・実験等と定めている。学問分野の特性に応じて、講義・演習・実習・実験等の組み合わせは異なり、文系の学部は講義を中心に、理系の学部は講義と演習をブレンドした授業が多くなっている【資料 5-2-①-A】。また、各学部の教育内容や目的に応じて、授業を工夫しており、教養教育では、少人数の対話・討論型授業あるいは PBL（課題解決）型授業によりコミュニケーション能力を修得させるための授業を実施し、さらに LMS（学習管理システム）と対面型授業を併用したブレンド型授業を実施している。文学部では「異文化コミュニケーション論実習」において、海外実習による英語運用能力・異文化対応能力養成のための海外フィールド型授業の実施など、理学部では物理学等各分野の少人数実験や、野外巡検、臨海実習などのフィールド型授業、教育学部では教員養成のための学校現場での体験活動（教育実習）、薬学部では 1 年次に早期体験学習（薬局、病院、企業への訪問、

プレゼンテーション) を実施し、5年次には薬局・病院実務実習の一環として医学・薬学連携の下で実施する「医学生の臨床実習(ポリクリ)と連携した参加型実務実習」による多彩な臨床現場での実習を実施している【資料5-2-①-B】。また、教材や小テスト、学生の事前・事後学習はLMSを活用し、授業時間外の学習を組み合わせるなど、教育内容に応じた学習指導法の工夫を行っている。一方、発見学習、問題解決型学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、討議、プレゼンテーション、省察(リフレクション)の内容を1コマ以上取り入れた授業を「アクティブ・ラーニング科目」と定義し、平成25年度の全授業科目に対する割合を調査した結果、19.7%(729科目/3,707科目)であった【資料5-2-①-C】。

資料5-2-①-A 学部等別授業形態(平成26年度実績)

(単位)

学部	講義	演習	実習	実験	講義及び演習等	合計
文学部	123	106	30	2	35	296
教育学部	379	193	82	13	122	789
法学部	127	65	2		9	203
理学部	303	84	15	46	35	483
医学部(医学科)	54	2	5		27	88
医学部(保健学科)	172	11	38	6	55	282
薬学部	45	21	24		34	124
工学部	214	43	17	17	129	420

出典：熊本大学学務情報システム(SOSEKI)及びシラバスを基に作成

資料5-2-①-B 教育内容に応じた適切な学習指導法の例

学部名	教育内容に応じた適切な学習指導法の例
教養教育	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎セミナー：少人数(20名以下)の対話・討論型授業あるいはPBL型授業を実施している。 ・ベーシック：LMS(オンライン教材)と対面型授業を併用したブレンド型授業 ・社会連携科目：社会人を含むオムニバス形式の講義、フィールドワークや企業見学等が含まれる。 ・教養科目：一部の科目にフィールドワークや体験型学習が含まれる。また、LMSを活用した講義もある。
文学部	<ul style="list-style-type: none"> ・「演習」、「実験」、「課題研究」などの授業科目は、徹底した少人数授業で行われている。 ・「課題研究」は、論文作成に向けての対話型・討論型授業になっている。その他、「演習」形式の授業を中心に、各教員によって討論型の授業が行われている(『授業計画書』参照)。 ・フィールド型の授業として、「社会調査実習」、「地理調査実習」、「歴史資料学野外実習」、「文化人類学応用演習」、「異文化コミュニケーション論実習」(海外フィールドワーク)、「ドイツ文化論実習」(海外フィールドワーク)、「フランス語圏文化論実習」(海外フィールドワーク)、「キャリアデザイン実習」(含：インターンシップ)、「地域インターンシップ」(仮称：授業科目としての設置検討中)がある。 ・講義や実験・実習の併用型授業として、「心理学研究法」、「芸術学実習」、「心理学基礎実験」、「心理学総合実験」、「歴史資料学実習」、「歴史資料学演習」、「言語の資料と分析」、「情報技術応用演習」がある。
教育学部	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学(講義、グループワーク) ・生涯スポーツ福祉概論(講義、演習) ・現代教師論(講義、討論) ・教育実践指導法演習(学校現場での体験活動、省察) ・教育臨床体験演習(演習、実習) ・初等国語科教育(講義、体験型学習) ・生活科教育(講義、実技) ・初等家庭科教育(講義、実習) ・日本史調査実習(実習、フィールドワーク) ・化学基礎研究(講義、ゼミナール、発表、討議) ・プレゼンテーション演習(ICT機器を利用した制作・発表) ・基礎物理学実験(講義、実験) ・文化実地研究(フィールド型調査実習)
法学部	法学部では、全学年に必修科目としての少人数教育授業を配置し、学生の発達や志望に応じて、段階的かつ柔軟な指

	<p>導を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次と2年次には、1クラスの人数を20人程度に制限した必修科目「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」を配置し、法学部としてのよりきめ細やかな高等学校からの大学への転換教育を行うとともに、法学と社会科学の基礎を学び、社会に対する問題関心を涵養し、大学生としての学習リテラシーの基礎を修得する。これらの科目は前期2単位の科目であるため、後期には、選択科目である「選択演習A」「選択演習B」をそれぞれ設定している。 ・ 3年次と4年次には、それぞれ必修科目である「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を設定し、そこでの発表や質疑応答を通じて、自己の学習成果を効果的にまとめ、プレゼンテーション能力を養成し、リテラシーの習熟を図っている。また、高年次においては、法科大学院進学、研究者、上級公務員といった進路を希望する学生向けに、対話・討論型の授業によってより深く法学を学習できるように、「公法特論Ⅰ・Ⅱ」「民法法特論Ⅰ・Ⅱ」「刑事法特論Ⅰ・Ⅱ」を設定している。
理学部	<p>少人数授業の例；物理学共通実験（他に化学、地学、生物学の各共通実験）、他に各分野における実験科目、卒業研究講義と演習組み合わせの例；代数概論Ⅰ・代数概論Ⅱ演習、力学・力学演習、卒業研究フィールド型授業の例；野外巡検、臨海実習、卒業研究TAの活用等；実験科目</p>
医学部	<p>○医学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタラクティブな双方向性学習やPBL（Problem-Based Learning）教育を推進し、学生参加型の授業を積極的に取り入れている。 ・ 地域医療教育や地域体験型教育を通じて、地域医療に関心を持ち、その中核を担う専門医師を育成している。 <p>○保健学科</p> <p>専攻の特性に応じて、講義、演習、実習、実験をバランス良く組み合わせるなど、それぞれの教育内容に応じた学習指導法の工夫をしている。また、実習・実験にTAを活用している。</p>
薬学部	<p>両学科とも早期に薬学としての専門的視点を持つこと、そして、各自の将来像と目的意識を明確するために1年次において専門科目および早期体験学習（薬局、病院、企業への訪問、プレゼンテーション）を実施している。3年次から各研究室に配属することによって、より専門性の高い学習が可能な教育編成を実施している。</p> <p>また、5年次には薬局・病院実務実習の一環として医学・薬学連携の下で実施する「医学生臨床実習（ポリクリ）と連携した参加型実務実習」を行い、より多彩な臨床現場での実習を実施している。</p>
工学部	<p>工学の専門知識と学際的知識を総合化した判断力を有するとともに、問題解決能力を備え国際的な視野に立つ幅広い知識と柔軟な応用能力を持つことのできる教育を実施し高級な技術者の育成を行うことを目的とした指導を行っている。実習等の科目では、PBLに基づく演習形態の授業や、国際化を目指したを実施しており、課題解決能力を身につけ、基礎科目や専門科目での修得知識を活かしたエンジニアリングを理解することを目標としている。</p> <p>また、国際化を目指した技術英語教育として、「工学英語」を3年次で必修とし、外国人教員を含む、各学科で国際的に活躍する教員が指導にあたっている。</p>

出典：各学部調査資料を基に作成

資料5-2-①-C アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目の割合

平成26年度 「大学教育再生加速プログラム」計画調書(抜粋)	
<p>テーマⅠ【指標】</p> <p>本学におけるアクティブ・ラーニングの定義</p> <p>各科目の中で1コマ以上、下記取り組みを取り入れた授業を「アクティブ・ラーニング科目」とする。</p> <p>(発見学習、問題解決型学習 (PBL)、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、討議、プレゼンテーション、省察 (リフレクション))</p>	
i)	<p>アクティブ・ラーニングを導入した授業科目の割合</p> <p>H25 19.7% (729科目/3,707科目)</p>
ii)	<p>アクティブ・ラーニング科目のうち、必修科目数の割合</p> <p>H25 58.4% (426科目/729科目)</p>
iii)	<p>アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合</p> <p>H25 87.1% (7,033名/8,075名)</p>
iv)	<p>学生1人当たりアクティブ・ラーニング科目受講数</p> <p>H25 2.7科目 (21,958名/8,075名)</p>
v)	<p>アクティブ・ラーニングを行う専任教員数</p> <p>H25 49.7% (386名/777名)</p>
vi)	<p>学生1人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間 [2時間以上の回答]</p> <p>H25 25%</p>

出典：平成26年度「大学教育再生加速プログラム」計画調書を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

本学の教育目標及び各学部・学科・課程等の教育目的に基づき、分野の特性に応じて、講義・演習・実習・実験等を組み合わせて実施しており、少人数対話・討論型授業あるいは PBL 授業、LMS と対面型授業を併用したブレンド型授業、海外フィールド型授業、教育学部や薬学部では現場における実習などを実施している。また、教材や小テスト、学生の事前・事後学習は LMS を活用し、授業時間外の学習を組み合わせるなど教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫も実施している。しかし、アクティブ・ラーニング授業の割合は十分高いとはいえず、また、急激なグローバル化への対応のために、初年次教育を含めた教養教育の更なる改革が必要である。

以上により、一部の課題を除いて、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されていると判断する。

観点 5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

本学では、履修方法、単位の計算・認定方法等は、学則第 36 条から第 39 条、教養教育履修規則第 5 条及び第 7 条、各学部の規則に明示しているとともに、学士課程において 1 年間の授業を行う期間が定期試験等の期間を含め 35 週確保されており、各授業が、15 週に渡る期間を単位として行われている【資料 5-2-②-A、B】。

また、学生に対して適切な履修指導を行うとともに、教育プログラムの履修により、学生が着実に学習成果を身に付けることができるよう、過剰な履修の防止を制度的に担保するため、法学部及び工学部では履修科目の登録の上限(CAP)を設定している【資料 5-2-②-C】が、その他の学部では必修科目が多く、履修指導等により学生が適正な履修を行うよう努めている。法学部及び工学部でも、優秀な学生には当該上限を超えて履修を認めており、工学部においてはその際 GPA を基準にしている【資料 5-2-②-D】。この GPA は、履修指導のほか、早期卒業の判定においても用いられている。また、平成 26 年度に構築した学生個人の e ポートフォリオシステムは、学習成果と履修科目との関係が可視化できるように作成している【資料 5-2-②-E】。このシステムにより、学生が学期ごとに学習成果をどの程度身に付けているのかチェックできる。

さらに、平成 26 年度に再構築したシラバスシステムは全学的にシラバス様式を統一し、本学公式ウェブサイトで公表し、授業の目標などを明示するとともに、学生の自主学習を促すために、シラバスシステムにおいて事前学習・事後学習について入力する取組が始まったところである【資料 5-2-②-F】。また、LMS を活用して、事前に教材をアップロードして配布したり、課題の提出に利用したり、学生からの質問に回答する等により、いつでも、また自宅はもちろん、どこからでも学習に取り組める環境を提供している。

なお、学生の予習・復習の時間については、【資料 5-2-②-G】にあるように、全学部において 2 時間以下の学習時間であると回答した学生が 8 割を占めている。学生の予習・復習の時間の実質的な増加・確保を図るため、『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』(平成 24 年 8 月 28 日中央教育審議会答申)に基づき、シラバスシステムの中に各回の授業ごとに事前学習と事後学習の内容を記載できるようにし、学生の学習時間の確保及び単位の実質化に向けての取り組みを行っている【資料 5-2-②-F】。

資料 5-2-②-A 履修方法及び単位の計算方法等

- ・学則第 36 条から第 39 条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000189.htm>
- ・教養教育履修規則第 5 条～第 7 条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000217.htm>
- ・各学部規則：(例示) 文学部規則第 4 条～第 7 条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000273.htm>

資料5-2-②-B 授業を行う期間 (教養教育の例)

2015年度教養教育カレンダー													
() は各曜日の授業等回数 (試験含む) 7月14日 (火)、15 (木)、17日 (金) は補講日とする。 9月28日 (月) から後学期開始とする。 10月12日 (月) は授業日とする。 11月23日 (月) は授業日とする。 12月22日 (火)、24日 (木) は補講日とする。 1月8日 (金) は授業日とする。							— 印は授業及び試験日 — 印は授業日・6時限目補講日 — 印は終日補講日						
【4月】 日 月 火 水 木 金 土 ⑤ 6 7 8 9 10 11 ⑫ 13 14 15 16 17 18 ⑬ 20 21 22 23 24 25 ⑳ 27 28 ㉑ 30							【10月】 日 月 火 水 木 金 土 ④ 5 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ 13 14 15 16 17 ⑱ 19 20 21 22 23 24 ㉒ 26 27 28 29 30 31						
【5月】 日 月 火 水 木 金 土 ③ ④ ⑤ ⑥ 7 8 9 ⑩ 11 12 13 14 15 16 ⑰ 18 19 20 21 22 23 ㉔ 25 26 27 28 29 30							【11月】 日 月 火 水 木 金 土 ① 2 ③ 4 5 6 7 ⑧ 9 10 11 12 13 14 ⑮ 16 17 18 19 20 21 ㉖ ㉗ 24 25 26 27 28 ㉙ 30						
【6月】 日 月 火 水 木 金 土 ⑦ 8 9 10 11 12 13 ⑭ 15 16 17 18 19 20 ㉑ 22 23 24 25 26 27 ㉓ 29 30							【12月】 日 月 火 水 木 金 土 ⑥ 7 8 9 10 11 12 ⑬ 14 15 16 17 18 19 ㉒ 21 22 ㉔ 24 25 26 ㉖ 28 29 30 31						
【7月】 日 月 火 水 木 金 土 ⑤ 6 7 8 9 10 11 ⑫ 13 14 15 16 17 18 ⑱ 20 21 22 23 24 25 ㉒ 27 28 29 30 31							【1月】 日 月 火 水 木 金 土 ③ 4 5 6 7 8 9 ⑩ ⑪ 12 13 14 15 16 ⑰ 18 19 20 21 22 23 ㉒ 25 26 27 28 29 30 ㉓ 31						
【8月】 日 月 火 水 木 金 土 ② 3 4 5 6 7 8 ⑨ 10 11 12 13 14 15 ⑰ 17 18 19 20 21 22 ㉒ 24 25 26 27 28 29 ㉓ 31							【2月】 日 月 火 水 木 金 土 ⑦ 8 9 10 ⑪ 12 13 ⑬ 15 16 17 18 19 20 ㉒ 22 23 24 25 26 27 ㉓ 29						
【9月】 日 月 火 水 木 金 土 ⑥ 7 8 9 10 11 12 ⑬ 14 15 16 17 18 19 ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ 24 25 26 ㉖ 28 29 30							【3月】 日 月 火 水 木 金 土 ⑥ 7 8 9 10 11 12 ⑬ 14 15 16 17 18 19 ㉒ ㉓ 22 23 24 25 26 ㉖ 28 29 30 31						

出典：熊本大学公式ウェブサイト平成27年度教養教育カレンダーより抜粋
http://www.kumamoto-u.ac.jp/organizations/general_education/yotei/index

資料5-2-②-C CAP制 (法学部の例)

(履修科目の登録の上限)

第5条 規則第6条の規定に基づく各年次の履修科目の登録の上限は、次のとおりとする。ただし、別表第1のCAP除外科目については登録上限の対象外とする。

	1年次	2年次	3年次	4年次
履修上限単位	40 単位	41 単位	40 単位	46 単位

出典：法学部履修細則から抜粋

資料5-2-②-D GPA 制度 (工学部の例)

5 成績評価および成績評点 (GPA)

成績はシラバスにしたがって100点満点で評価されるが、学生にはSOSEKI等を通して秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下) の5段階で通知され、可以上が合格、すなわち単位修得となる。この他、次年度に試験のみを課すS、履修を放棄したとみなされる×の記号が用いられる。

一方、GPA はCAP 制で上限値を決める場合や、早期卒業対象者の判定 (11②を参照)、履修指導の際に利用される。この値は、修得した成績の目安とするばかりでなく、履修計画の達成度を評価するために、以下の計算式で算出される。

$$GPA = \frac{\sum (n_i \times GP_i)}{\sum n_j}$$

ここで、分子の n_i および GP_i は、それぞれ修得した各科目の単位数およびその科目の GP(Grade Point) であり、分母の $\sum n_j$ は履修登録した科目の合計単位数を表す。すなわち、履修したにもかかわらず単位を修得できない場合は、GPA が下がることになる。

なお GPA 算出に使用する各科目の GP には、通常の評点 (100点満点) において90~100点、80~89点、70~79点、60~69点、59点以下である場合に、それぞれ4、3、2、1、0とする5段階評点を用いる。ただし、成績点のない認定科目の GP は、単位認定の場合に2.5とし、不認定の場合は0とする。

GPA 算出の対象外科目、履修上限値撤廃の GPA 要件は学科ごとに次表のように定まっている。

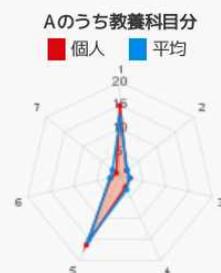
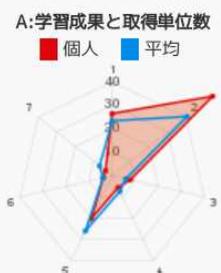
履修上限値撤廃する GPA 要件、GPA 算定対象外科目

学 科 名	履修上限値撤廃するGPA要件	GPA算定対象外科目
物 質 生 命 化 学 科	2.8	基礎セミナー、ベーシック、教職科目 学芸員科目、化学学外実習 ものづくりデザイン演習Ⅰ・Ⅱ 組込みシステム関連産業概論
マ テ リ ア ル 工 学 科	2.8	基礎セミナー、ベーシック、教職科目 学芸員科目、マテリアル工学応用セミナー ものづくりデザイン演習Ⅰ・Ⅱ 組込みシステム関連産業概論
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	2.8	基礎セミナー、ベーシック、教職科目 学芸員科目、機械システム応用セミナー ものづくりデザイン演習Ⅰ・Ⅱ 組込みシステム関連産業概論
社 会 環 境 工 学 科	2.8	基礎セミナー、ベーシック、教職科目 学芸員科目、インターンシップ ものづくりデザイン演習Ⅰ・Ⅱ 組込みシステム関連産業概論
建 築 学 科	2.8	基礎セミナー、ベーシック、教職科目 学芸員科目、インターンシップ ものづくりデザイン演習Ⅰ・Ⅱ 組込みシステム関連産業概論
情 報 電 気 電 子 工 学 科	2.8	基礎セミナー、ベーシック、教職科目 学芸員科目、インターンシップ第一、第二 ものづくりデザイン演習Ⅰ・Ⅱ 組込みシステム関連産業概論
数 理 工 学 科	2.8	基礎セミナー、ベーシック、教職科目 学芸員科目、インターンシップ ものづくりデザイン演習Ⅰ・Ⅱ 組込みシステム関連産業概論

出典：工学部学生便覧から抜粋

資料5-2-②-E 学習成果とeポートフォリオシステム

学生情報



学習成果	専門/ 教養	必修/ 選択	GPA GPT 取得単位	2014 (前期)	2014 (後 期)	2013 (前期)
1.豊かな教養	専門	必修				
		選択	3.437 (2.652)			文化史概説I (2 優) シ
	教養	必修	91.2 (64)			
		選択	26.5 (23.4) (52名の平均)			
2.確かな専門性	専門	必修				
		選択	3.309 (2.667)			地域社会学概論II (2 優) シ 日本史概説II (2 可) シ 文化史概説II (2 優) シ
	教養	必修	179.6 (112)		課題研究II (2 優) シ	日本語学演習 (2 優) シ 日本文学演習 (2 秀) シ 比較文学概論I (2 秀) シ
		選択	54.3 (40.5) (52名の平均)			日本語学特殊講義 (2 優) シ 日本語学特殊講義 (2 秀) シ

出典：学務ユニット調査資料を基に作成

資料5-2-②-F シラバスシステムにおける事前事後学習

講義題目(テーマ)																											
使用言語	日本語による講義 + 日本語のテキスト																										
授業の形態	講義・演習																										
授業の方法	講義を主体とし、演習を組み込むことで内容の理解を深める。																										
授業の目的	自由物体の力のつり合いより、はりの断面力を求め図化し、トラス部材の軸力を求め、応力とひずみの定義および断面量について学ぶ。																										
授業の概要	1年の「工学の基礎力学」と「連続体の力学」の内容を踏まえて、構造部材の代表部材である曲げを受けるはり部材および軸力部材からなるトラス構造を対象に構造力学を学びます。さらに本授業は、後期の「構造の力学応用」や3の「構造工学」の基礎となります。特に、部材の支持方法、静定・不静定の区別、自由物体のつりあひ式の立て方と図化法はりの断面力の求め方と図化方法、さらに、トラスの部材力、部材の断面量と材料の応力とひずみの関係の求め方について学びます。																										
到達目標	<p>【最重要3項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造物を対象に静定・不静定の区別ができ、自由物体によりつり合い式を立てて解くことができるようになる。 2. 部材の軸方向力、せん断力、曲げモーメントを求めて図化することおよびトラス構造の部材力を求めることができるようになる。 3. 断面量と変形との関係を理解し、材料の応力-ひずみの関係を求めることができるようになる。 <p>【学習・教育目標との対応】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ◎大分類：C(基礎力)、小分類：力学系教育項目の基礎科目の内容を理解している。 2) ◎大分類：E(専門力)、小分類：力学系の教育項目の専門科目の内容を理解している。 3) ◎大分類：H(継続学習力)、小分類：専門分野における観測・分析・設計・評価のサイクルを継続的に学習する習慣と技術を身に付けている。 <p>【学習・教育目標の設定理由】</p> <p>構造物を安全に作るための基礎となる構造力学を修得するために必要な数理的基礎力を養成する。また、与えられた構造問題のつり合い式を立てて解く力を持ち、専門分野へ応用かつ応用できる力を養成するため。</p> <p>以下の(1)~(4)の各項目について評価し、各評価項目について50%以上の点数を取り、合計で60点以上を合格とする。ただし、出席は2/3以上とする。予習課題、復習課題はすべて提出することが必須の合格の条件です。成績評価の標準は、最重要3項目の内容の理解の到達度です。</p> <p>(1)確認演習30% (2)期末試験40% (3)予習課題10% (4)復習課題20%</p>																										
評価方法・基準																											
履修条件	「工学の基礎力学」と「連続体の力学」を修得していることが望ましい。																										
各回の授業内容と事前・事後学習	<p>各回の授業内容と事前・事後学習</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容概略</th> <th>内容詳細 事前学習 事後学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回 ガイドンス、構造力学と自由物体図 (1, 2章)</td> <td>構造力学で何を学ぶのか、外荷重の種類とモデル化と理想化、力の単位、分布荷重の集中荷重への置換、力の3要素について理解する。なお、WebCTに授業で用いる資料や課題の解答等を掲載します。</td> <td>詳細 事前 事後</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2回 骨組み構造の静定・不静定の区別、構造物の支え方 (3章)</td> <td>支点反力とは何か、支承の種類、静定構造と不静定構造の違いと支点反力の関係を学ぶ。そして、力のつり合い条件、断面力の種類と自由物体図を理解する。</td> <td>詳細 事前 事後</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第3回 部材の断面力である軸力とせん断力を求めて図化 (4章)</td> <td>自由物体のつり合い式より、部材の断面力である軸力Nとせん断力Qの算出し、N図、Q図の作成をすることを理解する。</td> <td>詳細 事前 事後</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第4回 部材の断面力であるせん断力と曲げモーメントを求めて図化(1)</td> <td>自由物体のつり合い式より、部材の断面力であるせん断力Qと曲げモーメントMの算出し、Q図とM図の作成を理解する。</td> <td>詳細 事前 事後</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第5回 部材の断面力であるせん断力と曲げモーメントを求めて図化(2)</td> <td>部材の断面力であるせん断力Qと曲げモーメントMの算出しとQ図とM図</td> <td>詳細 事前 事後</td> </tr> </tbody> </table>			回	授業テーマ	内容概略	内容詳細 事前学習 事後学習	1	第1回 ガイドンス、構造力学と自由物体図 (1, 2章)	構造力学で何を学ぶのか、外荷重の種類とモデル化と理想化、力の単位、分布荷重の集中荷重への置換、力の3要素について理解する。なお、WebCTに授業で用いる資料や課題の解答等を掲載します。	詳細 事前 事後	2	第2回 骨組み構造の静定・不静定の区別、構造物の支え方 (3章)	支点反力とは何か、支承の種類、静定構造と不静定構造の違いと支点反力の関係を学ぶ。そして、力のつり合い条件、断面力の種類と自由物体図を理解する。	詳細 事前 事後	3	第3回 部材の断面力である軸力とせん断力を求めて図化 (4章)	自由物体のつり合い式より、部材の断面力である軸力Nとせん断力Qの算出し、N図、Q図の作成をすることを理解する。	詳細 事前 事後	4	第4回 部材の断面力であるせん断力と曲げモーメントを求めて図化(1)	自由物体のつり合い式より、部材の断面力であるせん断力Qと曲げモーメントMの算出し、Q図とM図の作成を理解する。	詳細 事前 事後	5	第5回 部材の断面力であるせん断力と曲げモーメントを求めて図化(2)	部材の断面力であるせん断力Qと曲げモーメントMの算出しとQ図とM図	詳細 事前 事後
回	授業テーマ	内容概略	内容詳細 事前学習 事後学習																								
1	第1回 ガイドンス、構造力学と自由物体図 (1, 2章)	構造力学で何を学ぶのか、外荷重の種類とモデル化と理想化、力の単位、分布荷重の集中荷重への置換、力の3要素について理解する。なお、WebCTに授業で用いる資料や課題の解答等を掲載します。	詳細 事前 事後																								
2	第2回 骨組み構造の静定・不静定の区別、構造物の支え方 (3章)	支点反力とは何か、支承の種類、静定構造と不静定構造の違いと支点反力の関係を学ぶ。そして、力のつり合い条件、断面力の種類と自由物体図を理解する。	詳細 事前 事後																								
3	第3回 部材の断面力である軸力とせん断力を求めて図化 (4章)	自由物体のつり合い式より、部材の断面力である軸力Nとせん断力Qの算出し、N図、Q図の作成をすることを理解する。	詳細 事前 事後																								
4	第4回 部材の断面力であるせん断力と曲げモーメントを求めて図化(1)	自由物体のつり合い式より、部材の断面力であるせん断力Qと曲げモーメントMの算出し、Q図とM図の作成を理解する。	詳細 事前 事後																								
5	第5回 部材の断面力であるせん断力と曲げモーメントを求めて図化(2)	部材の断面力であるせん断力Qと曲げモーメントMの算出しとQ図とM図	詳細 事前 事後																								

出典：シラバスシステム (学内専用)

資料5-2-②-G 学生の予習・復習時間について

	文学部	教育学部	法学部	理学部	医学部		薬学部	工学部	合計	学 年 別				
					医学科	保健学科				1年	2年	3年	4年	5・6年
4時間以上	8	7	7	3	10	5	1	16	57	3	10	9	26	9
	10.5	2.9	8.3	6.3	9.3	4.0	1.1	5.3	5.3	1.2	3.6	4.1	9.4	15.3
3時間~4時間未満	4	6	5	2	6	9	1	13	46	11	7	10	14	4
	5.3	2.5	6.0	4.2	5.6	7.2	1.1	4.3	4.3	4.5	2.5	4.6	5.1	6.8
2時間~3時間未満	11	24	1	6	9	14	4	19	88	18	21	20	24	5
	14.5	10.1	1.2	12.5	8.4	11.2	4.3	6.3	8.2	7.3	7.6	9.2	8.7	8.5
1時間~2時間未満	23	41	26	15	25	31	14	94	269	72	89	46	50	12
	30.2	17.2	31.0	31.1	23.4	24.8	14.9	30.9	25.0	29.4	32.2	21.2	18.1	20.3
1時間未満	19	68	29	15	32	35	30	92	320	90	82	62	71	15
	25.0	28.6	34.5	31.3	29.9	28.0	31.9	30.4	29.8	36.8	29.6	28.6	25.6	25.4
ほとんどしない	11	92	16	7	25	31	43	69	294	51	68	70	91	14
	14.5	38.7	19.0	14.6	23.4	24.8	45.6	22.8	27.3	20.8	24.5	32.3	32.7	23.7
無回答	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
	-	-	-	-	-	-	1.1	-	0.1	-	-	-	0.4	-
合計	76	238	84	48	107	125	94	303	1075	245	277	217	277	59
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出典：第8回学生生活実態調査報告書から抜粋

【分析結果とその根拠理由】

本学では、履修方法等を学則等で定めるとともに、学士課程において、1年間の授業を行う期間が、定期試験等の期間を含め、35週確保されており、各授業が15週に渡る期間を単位として行われている。

また、学生が着実に学習成果を身に付けることができるよう、法学部及び工学部では履修科目の登録の上限を設定しているが、その他の学部では必修科目が多く、履修指導等により学生が適正な履修を行うよう努めており、特に上限の設定は行っていない。eポートフォリオシステムにおいては、学生自身が実際に取得した科目と単位数、GPAと学習成果の関係より達成度を確認できる。

さらに、平成 26 年度に再構築したシラバスシステムは全学的にシラバス様式を統一し、授業の目標などを明示するとともに、学生の自主学習を促すために、シラバスシステムにおいて事前学習・事後学習を示すなど、学生の予習・復習の時間の実質的な増加・確保を図る取り組みを行っている。

以上により、学習時間の確保に向けては現在取組み中であることも含め、全体として単位の実質化への配慮がなされていると判断する。

観点 5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点到に係る状況】

本学では、平成 24 年度は全学で、平成 25 年度は各部局においてシラバス・チェックを行い、シラバスの記載内容が一定の水準を保つことを担保するとともに、シラバスの改善に努め【資料 5-2-③-A】、平成 26 年度にシラバスシステムを再構築した。本システムは、全学的にシラバスの様式を統一し、公式ウェブサイトで公表しており、授業科目について、学習成果とその割合、授業の目的、概要、到達目標、評価方法・基準、各回の授業内容と事前・事後学習、参考文献、オフィスアワー等が示されている。学生の授業時間外の学習時間を促すための事前学習・事後学習については、学習内容をシステムにファイルアップロードができ、時間と場所を問わずいつでも学習できる仕組みとなっており、さらにはメールアドレス等担当教員の連絡先も記載されているため、連絡が可能となっている【前掲資料 5-2-②-F、資料 5-2-③-B】。シラバスの記載に当たっては、シラバス記入要領を提示している【資料 5-2-③-C】。

シラバスについては、入学時のオリエンテーションで説明を行っており、平成 25 年度に在学生を対象にシラバスの利用状況についてアンケートを行ったところ、その結果、シラバスを履修登録時及び試験前に利用し、また評価方法・基準やテキスト・参考文献を確認するために活用する学生が多いことがわかった【資料 5-2-③-D】。この結果とシラバス・チェックの結果を踏まえて、7つの学習成果との対応、履修条件、毎回の授業内容や事前・事後学習内容を確実に記述・充実させ、学生がシラバスを学習に活用できるようにする。そして、シラバスから学生の授業時間外の学習時間の増加につながるようシラバスシステムを再構築した。

資料 5-2-③-A 「シラバスチェック」実施報告書抜粋

シラバスによっては何も記載されていない（空欄の）項目や極端に短い記述があり、学生が学習の目的や内容、また授業構成を十分に理解することが困難と思われるものも見受けられた。今後は、部局、課程、授業科目等ごとに、FD 委員会や関係教員グループなどで議論を深め、学生にとってさらにわかりやすく、また役に立つシラバス作りに組織的に一層取り組んでいく必要がある。

本ファカルティ・ディベロップメント委員会において、シラバスチェックの実施体制について、「各部局においては、FD を恒常的に実施する主体として、第 1 回シラバスチェックの実施報告書を参考に部局の FD 活動の中で、シラバスチェックについて組織的に取り組む。」ことと決定している（平成 23 年 12 月 15 日 第 4 回ファカルティ・ディベロップメント委員会）。上述したように、今後は今回のシラバスチェックの成果と課題を踏まえて、よりよいシラバス記載が浸透するように各部局が主体的に取り組むことになる。本報告書がそのための一助となることを切に願う。

出典：「シラバスチェック」実施報告書より抜粋

平成 25 年度に各部局等が行ったシラバスチェック実施結果等について

1. シラバスチェック実施結果等について

委員長から、各部局で実施していただいたシラバスチェック結果について、シラバスの高度化検討 WG において検討している新シラバスシステムへの要望等も含め、昨年度の全学シラバスチェック結果との比較、シラバスチェック結果のフィードバック等の観点から報告していただきたい旨発言があり、部局選出委員から資料 1-1 に基づき、それぞれのシラバスチェック結果の概要について説明があった。全般的には、昨年度の全学シラバスチェック結果と比して概ね改善傾向にあるが、文字数の不足、授業目標や 15 回分の内容の関係性が曖昧な記述である等、昨年度指摘された問題点が見受けられるといった内容であった。なお、シラバスチェックの方法、新シラバスへの要望に関し、次のような意見があった。

○シラバスチェックの観点を入力の際に示し、またシラバスチェックの評価基準を示してはいるが、個々の教員によって解釈の幅があり、理解不足による記載のため評価が低くなり、評価する側においても評価基準の解釈が異なるため評価結果にバラツキが出てしまうため、記載例を配布する等の工夫が必要である。

○講義科目と実技・実習科目の別により、授業内容の記載の仕方が異なるので、一の基準でシラバスチェックを行うことは難しいかもしれない。

○シラバスとは別のもので詳細な授業内容を示したとしても、それは外部に公表されるシラバスに含まれないため、結果としてシラバスチェックの評価が低くなってしまった例もある。外部公表シラバスの充実を意識する必要がある。

○非常勤講師にシラバス作成を依頼する際のシラバス作成方法の周知、オムニバス科目に係るシラバス作成について工夫する必要がある。

○文字数はシラバスチェックの観点の一つであるが、新シラバスシステムに機械的に文字数をカウントする機能を装備して欲しい。

○シラバス記載例を参照しながらシラバス入力を行えば、シラバス内容の充実の改善に資すると思われるため、シラバス入力時にアドバイスが表示されるような機能を新シラバスシステムに取り入れて欲しい。

その後、委員長から、各部局におけるシラバスチェックの総括を行ったが、その結果を次年度シラバスの入力に活用していただきたい、また今回いただいた意見をシラバスの高度化WGにおいて検討し、シラバス見直しの検討状況について1月の本委員会で中間報告を行う予定である旨付言があった。

出典：平成25年度第4回ファカルティ・ディベロップメント委員会議事要録より抜粋

資料5-2-③-B 「熊本大学のシラバス」

シラバスシステム (学外用) : <http://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/>
 シラバスシステム (学内用) : <http://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/auth/>

資料5-2-③-C シラバス記入要領

ヘルプメッセージ(日本語)	
項目	ヘルプ内容
科目ナンバー	
講義題目(テーマ)	通常は必要ないが、授業科目に講義題目等がある場合は記載する。 例: 教養教育の「基礎セミナー」や「理系基礎科目」の講義題目 「まちづくりについて考える」「哲学の世界」「化学と実験」 ※最大文字数: 英文字を含む日本語100字
使用言語	授業で使用する言語を選択する。 例: 日本語による講義 + 英語のテキスト
授業の形態	「講義」「演習」「実習及び実技」「実験」「その他」「実習」「実技」「講義・演習」のいずれかを記載する。また、「その他」を記載した場合は「授業の方法」の欄に詳細を記載する。 例: 講義 ※最大文字数: 日本語6字(2字以上入力しないと一時保存できません。)
授業の方法	対面授業、グループ学習、反転授業、eラーニング、アクティブラーニング、PBL等授業の方法を明示する。 例: 予習はeラーニング教材で行い、対面授業はグループによるPBL(問題解決型学習)形式を中心とする。 ※最大文字数: 英文字を含む日本語300字(4字以上入力しないと一時保存できません。)
授業の目的	大学、学部、学科、研究科等の教育目的に照らして、この授業を実施する目的や履修することで学生に身に付けてもらいたい能力などを明示する。 例: 線形代数の基本的な内容を理解し、行列式の計算ができるようになることを目指している。/ ARCS理論とADDIEモデルについて自分の言葉で説明できるようになることを目指している。 ※最大文字数: 英文字を含む日本語500字(40字以上入力しないと一時保存できません。)
授業の概要	授業の目的や到達目標を達成するために「何を学ぶか」を明示する。15回の授業全体を把握できるよう、授業の内容を概括して記載する。 ※最大文字数: 英文字を含む日本語500字(50字以上入力しないと一時保存できません。)
到達目標	・「授業の目的」を踏まえて、「学習の到達目標＝授業終了段階で、学生にできるようになってほしい能力」について、具体的に、短文で明示する。 ・学生を主体として箇条書きで記入する。 例: 「〇〇について知り、説明できるようになる。」 「〇〇について学び、××について考察することにより、△△できるようになる。」 ※最大文字数: 英文字を含む日本語500字(50字以上入力しないと一時保存できません。)

評価方法・基準	<p>授業の到達目標や授業の内容を踏まえた、小テスト、口頭発表、中間テスト・期末テスト、学期末レポートなど、予定している評価方法、成績評価における割合及び評価基準を明示する。なお、「出席」は単位修得の欠格条件であるため、いわゆる「出席点」を設けてはならない。</p> <p>例：毎回の授業後提出のコメントシート20%、期末テスト60%、学期末レポート20%</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語300字(30字以上入力しないと一時保存できません。)</p>
履修条件	<p>受講にあたって必要となる条件や前提となる知識を明示する。</p> <p>例：「本授業に関連する基礎的な知識を有すること」「〇〇(授業科目名)の単位を修得済の者」「この科目を履修するためには、事前に〇〇科目を履修することが必要である(望ましい)」</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語300字</p>
各回の授業内容と事前・事後学習	<p>・「授業テーマ」には、各講義のタイトルやテーマを記載する。</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語100字(5字以上入力しないと一時保存できません。)</p> <p>・「内容概略」を、各回毎に記載する。この場合において、授業で取り上げる項目や重要な概念、15回分の授業の内容やその相互の関連を明示する。</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語200字(10字以上入力しないと一時保存できません。)</p> <p>・授業内容について詳細な説明を要す場合は、「内容詳細」のボタンをクリックし、ファイルをアップロードする。</p> <p>・「事前学習」「事後学習」をクリックし、予習・復習の内容をそれぞれ記載する。50字以内であれば表示されるウィンドウに直接記載し、51字以上の場合やファイルを添付する必要がある場合はファイルをアップロードする。</p> <p>※「内容詳細」「事前学習」「事後学習」にアップロードしたファイルは、全学LMS(Moodle)にある各科目のコースに自動格納される。受講者のみが本シラバスシステム又はLMSからダウンロードすることができる。また、「内容詳細」「事前学習」「事後学習」の3項目に限り、シラバス入力期間後(シラバスの外部公開後も)随時更新することができる。</p>
キーワード	<p>キーワード(5つ程度)を明示する。</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語100字(10字以上入力しないと一時保存できません。)</p>
テキスト	<p>・使用するテキストあるいは資料等を明示する。</p> <p>・テキストの著者、出版社、出版年などの書誌情報を明示する。</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語200字</p>
参考文献	<p>・(授業内容などから必要な場合)参考文献を明示する。</p> <p>・参考文献の著者、出版社、出版年などの書誌情報を明示する。</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語300字</p>
オフィス・アワー	<p>オフィスアワーを明示する。</p> <p>例：毎週〇曜日 〇限目、 〇曜日・〇曜日 〇時～〇時</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語200字(5字以上入力しないと一時保存できません。)</p>
担当教員への連絡方法	<p>連絡方法を明示する。(電話番号、メールアドレス等)</p> <p>例：TEL：096-000-0000(研究室) E-mail：〇〇〇@〇〇.〇〇</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語200字(10字以上入力しないと一時保存できません。)</p>
担当教員からのメッセージ	<p>履修条件に記載した項目以外に、履修する上での注意事項、持参物、学生へ伝えておきたい事項などを記載する。</p> <p>※最大文字数：英文字を含む日本語300字</p>
授業開放	<p>政策創造研究教育センターの運営する「授業開放」として、熊本大学の正規の授業を一般市民に開放するかどうか。</p> <p>【参考URL】http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/syogaigakushu/kaihou/</p> <p>※不明な点は、マーケティング推進部地域連携ユニット下記担当までお問い合わせください。</p> <p>TEL：096-342-3121 E-mail：manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp</p>

出典：平成26年度第5回シラバス高度化検討WG資料より抜粋

資料5-2-③-D シラバスの利用に関するアンケート

2. 概要

(1) アンケート実施期間

平成 26 年 1 月 14 日～31 日

(2) アンケートの実施方法

イ) 教養科目のシラバス :

総合情報基盤センター長、情報教育教科集団幹事・副幹事等の協力により、教養科目「ベーシック」において、主として 1 年次生を対象にオンラインアンケートを実施した。

ロ) 専門科目のシラバス :

2 年次生及び 3 年次生の履修登録者数が多い授業科目において、当該授業科目の担当教員にアンケート用紙の配布及び回収を行っていただいた。

(3) アンケート実施率

- アンケート対象者数(1~3 年次の在籍者総数) : 5,611 名
- アンケート回答数 : 3,046 名(4 年次生以上の回答も加えている。)
- アンケート実施率 : アンケート回答数/アンケート対象者数 = 54.3%

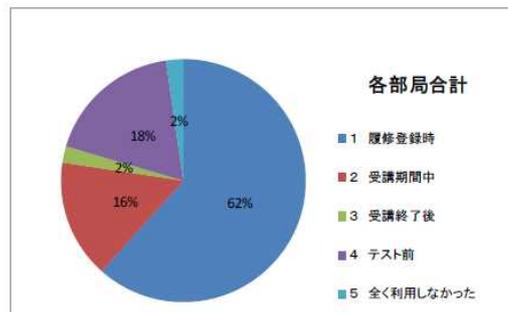
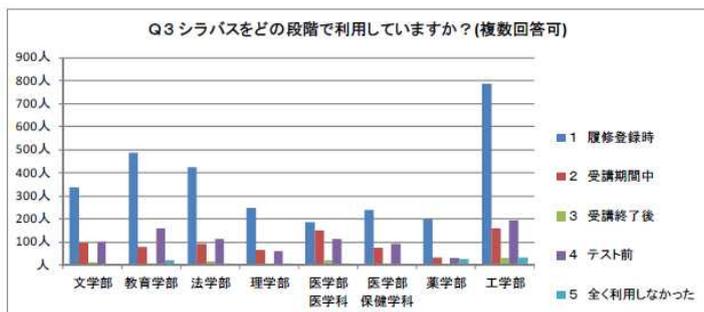
各年次の在籍数を分母		文学部		教育学部		法学部		理学部		医学部医学科	
		回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
Q2 学年を教えてください。	1年次	160人	89%	236人	75%	191人	89%	153人	77%	99人	79%
	2年次	111人	59%	116人	37%	108人	42%	1人	0%	72人	58%
	3年次	58人	29%	131人	42%	100人	45%	99人	54%	55人	44%

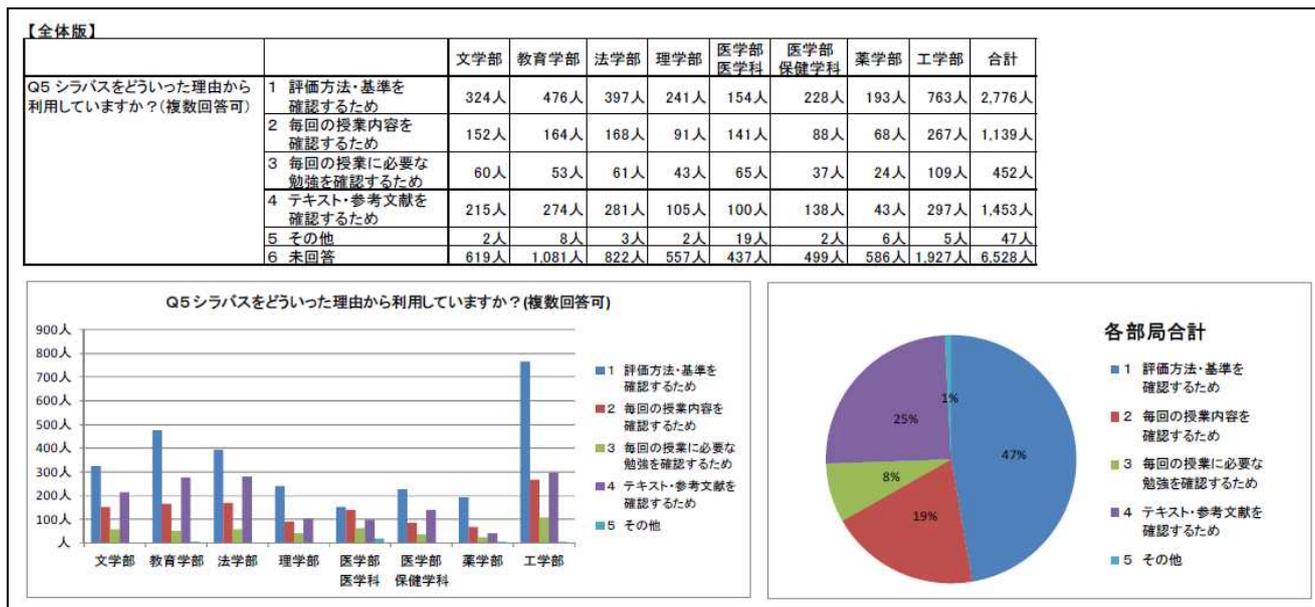
各年次の在籍数を分母		医学部保健学科		薬学部		工学部		合計	
		回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
Q2 学年を教えてください。	1年次	114人	77%	72人	73%	436人	81%	1,461人	81%
	2年次	68人	40%	80人	83%	191人	36%	747人	39%
	3年次	63人	40%	75人	78%	207人	35%	788人	42%

(注) 本報告書中に作成した表について、特徴的なセルは黄色でハイライトした。

【全体版】

Q3 シラバスをどの段階で利用していますか？(複数回答可)		文学部	教育学部	法学部	理学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	薬学部	工学部	合計
		1 履修登録時	338人	489人	426人	249人	184人	240人	198人	783人
2 受講期間中	97人	76人	90人	66人	150人	75人	32人	157人	743人	
3 受講終了後	10人	7人	16人	8人	20人	9人	2人	31人	103人	
4 テスト前	99人	157人	115人	62人	112人	90人	27人	192人	854人	
5 全く利用しなかった	2人	22人	6人	9人	6人	4人	26人	33人	108人	





出典：平成 25 年度第 6 回ファカルティ・ディベロップメント委員会資料から抜粋

【分析結果とその根拠理由】

本学では、全学及び各部局のシラバスチェックの結果を踏まえて、7つの学習成果との対応、各回の授業内容、到達目標、評価方法・基準、事前・事後学習内容等を充実させることで、シラバスシステムから学生の授業時間外の学習時間の増加につながるようシラバスの記載内容を改善し、公式ウェブサイトで公表し、学生には入学時のオリエンテーションで説明を行っている。さらに、各授業担当教員には確実な記述・入力のためのシラバス記入要領を提示している。

以上により、適切なシラバスが作成及び活用されていると判断する。

観点 5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

【観点到る状況】

基礎学力不足の学生への指導状況については、各学部で実施している【資料 5-2-④-A】。全学における教養教育では、1年次で英語の基礎力に自信のない人を対象とする自由選択外国語科目（必修外国語科目の単位の代替不可）を学期毎に開講している。また、理学部は、1年次の教養教育（理系基礎科目）において、数学、物理、化学、生物、地学の全ての科目が選択必修で、高校での既修未修など履修状況によりクラス分けしている。工学部においては、入学時に行う数学、物理、化学の基礎学力テストの結果から下位 10%の補習対象者を決定し、ガイダンス、各科目週 1 コマの補習講義及び TA による学習指導等の補習・履修指導などを実施している【資料 5-2-④-B】。薬学部でも平成 27 年度から新入生に対して、プレースメントテスト（数学・化学・物理・生物）を実施し、基礎学力不足の学生を把握し、授業担当教員による個別指導に向けての対応を開始した。

また、グローバル化の加速する社会において活躍できる人材育成の重要性が増していることを受け、平成 25 年度入学生から「TOEIC-IP テスト」を入学当初及び 2 学年末の 2 回実施している。従来のリベラルアーツとしての英語教育にとどまらず、平成 25 年度入学生の「TOEIC-IP テスト」の結果を基礎資料のひとつとして、新たな英語教育の検討を始める予定である【別添資料 12】。

資料5-2-④-A 各学部の基礎学力不足の学生への指導状況等

学部名	指導状況等
教養教育	・2006年度から1年次で英語の基礎力に自信のない人を対象にして、英語I-1（英語基礎力充実コース）を前学期に開講している。平成26年度の受講者は、2クラスで74名であった。
文学部	・現在のところ、特別な指導を必要とするような基礎学力が不足している学生は見られないので、特に行っていない。
教育学部	・理科教育学科においては「1年生セミナー」を実施している。1年次前期に全教員で12回実施し、生活面も含めた指導を行っている。
法学部	・入試時に基礎学力を担保しており、現在は基礎学力が不足している学生は見られない。
理学部	・理系基礎科目では、高校での履修状況を参考にクラス分けをしている。
医学部	(医学科) ・現在のところ、特別な指導を必要とするような基礎学力が不足している学生は見られない。 (保健学科) ・放射線技術科学専攻では、高校での物理履修の有無を入学時に調査し、希望者へ補講授業等を実施している。
薬学部	・新入生に対して、プレースメントテスト（数学・化学・物理・生物）を実施し、基礎学力不足の学生を把握するとともに、当該学生に対して授業担当教員による個別指導に向けての対応を開始した。 ・低学年の授業（病態生理解剖学、解剖生理学概論、分析化学I、免疫学など）では、特に高校で生物を履修していない学生に対して、シラバスの事前・事後学習で学習方法を指導し、学生の理解を助けるための画像や動画を用いた授業を多く取り入れ、全ての質問に答える努力を行っている。 ・物理を高校で履修していない学生に対しては、物理化学IIで、毎回、授業で学んだこと、分からなかったこと、感想などを記述する小レポートを課し、各人に必要な学習を本人が理解する助けとしている。 ・病態生理解剖学（1年次）では、最初の小テストの成績不良者に対して面接を行い、生活上の問題が無いか、学習上の問題点は何かなどについて、個々の学生と話し合い対策を立て、必要に応じて担任に連絡している。また、低学年の専門科目では、3回連続して欠席した学生は学務に連絡して個別に対応している。
工学部	入学時に行う基礎学力テストの成績に応じて、成績の下位10%程度の学生及び学科等で補習が必要と判断した学生対象に補習授業を実施している。対象科目は数学・物理・化学で計10回の補習授業を実施するとともに、毎週教務委員による出席状況の確認及び欠席者への受講指導をしている。

出典：各学部調査資料を基に作成

資料5-2-④-B 工学部の基礎学力実施要項等（抜粋）（平成26年度）

平成26年度 数学・物理・化学基礎学力テスト			
1. 日時及び実施場所 4月3日（木） 8:40～10:10 工学部2号館			
2. 業務従事者 （工学部教務委員） 教務委員長、教員8名、他補助者10名			
3. 時間割			
科目名		時間	
数	学	8:40～	9:10
物	理	9:10～	9:40
化	学	9:40～	10:10
4. 監督者割振			
学 科 名	人 数	教 室	試験監督者
物質生命化学科	87	231教室	3名
マテリアル工学科・数理工学科	62	214教室	2名
機械システム工学科	1組	221教室	2名
	2組	222教室	2名
社会環境工学科	78	211教室	3名
建築学科	61	212教室	2名
情報電気電子工学科	159	223教室	4名

- 補習対象者
 - ① 各科目において、新入生受験者の成績の下位 10%の学生。
 - ② 学科等で補習が必要と判断した学生。例えば、推薦入学 II (イ)による新入生など。
 - ③ その他の学生
 上記の学生に対し、各学科の教務委員あるいは担任がその旨を伝えた上で受講を勧める。
- 補習(ステップアップコース) (前期のみ) :
 - ① ガイダンスの実施 (数学: 2 回程度、物理・化学: 1 回)
 - ・ 補習(ステップアップコース)の内容紹介
 - ・ 時間割の希望調査 (数学)
 - ② 補習講義 (各 1 コマ/週)
 - ・ 補習講師により、連休明けより開始し、計 10 週の実施
 - ・ 物理【金・1 限目】と化学【月・5 限目】
 - ・ 教室は受講学生数によって決定
 - ・ 補習(ステップアップコース)担当教員
 - ③ TAによる学習指導
 - ・ 4 月 8 日から開始し、毎日 5 限目 (学生支援室にて)
 - ・ 4 月は主に履修方法と学生生活の相談

出典：工学部調査資料を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

基礎学力不足の学生への指導として、教養教育では、1 年次で英語の基礎力をつけるために自由選択外国語科目として学期毎に開講し、理学部では、高校での履修状況に応じ、教養教育の理系基礎科目の履修についてクラス分けを行い、それに応じた講義を行っている。また、工学部では、入学時の基礎学力テストの結果から補習対象者を決定し、補習講義及び TA による学習指導等の補習・履修指導などを実施している。また、グローバル化の加速する社会において活躍できる人材育成の重要性が増していることを受け、従来のリベラルアーツとしての英語教育にとどまらず、新たな英語教育を検討するための基礎資料とするため、平成 25 年度入学生から「TOEIC-IP テスト」を入学当初及び 2 学年末の 2 回実施しており、新たな英語教育の検討を始める予定としている。

以上により、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われていると判断する。

観点 5-2-⑤： 夜間において授業を実施している課程（夜間学部や昼夜開講制（夜間主コース））を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-2-⑥： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-3-①： 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められているか。**【観点到係る状況】**

本学では、学位規則第3条に「学士の学位は、本学を卒業した者に授与する」と定め、卒業の要件については学則第58条及び各学部規則に定められている。平成23年度には、学士課程の学位授与の方針「幅広く豊かな教養と確かな専門性を身に付け、社会に貢献するために必要な創造的知性と実践力を兼ね備え、グローバルな視野と国際的対話力を持った人材の育成を目的として、各学部・学科等において編成された教育課程を学修し、所定の単位を取得した者に学位を授与する」を定めており【資料5-3-①-A】、また、教育プログラム毎に学位授与の方針を策定し、本学公式ウェブサイトに掲載している【前掲資料5-1-①-B】。

資料5-3-①-A 学士課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

学士課程の学位授与方針：<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/gakusikatei>

【分析結果とその根拠理由】

本学では、学位規則において学位授与の要件、学則及び各学部規則において卒業の要件が定められ、本学公式ウェブサイト公表されている。また、教育プログラム毎に学位授与の方針を定めている。

以上により、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められていると判断する。

観点 5-3-②： 成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。**【観点到係る状況】**

本学において、成績評価基準は、学則第39条の2【資料5-3-②-A】に定めており、各学部規則及び教養教育履修規則において、授業科目を履修した者については、学力試験、論文、出席状況等、単位認定について定め、秀、優、良、可及び不可の評語あるいは合格、不合格又は認定の評語をもって判定している。これらの規則等は学生便覧に収録することにより学生に明示するとともに、履修ガイダンス等において学生に周知している。可か不可というのは絶対評価で合否判定をするが、それ以上については相対評価を導入し、さらに、秀、優、良、可の区分については偏在に留意することと、秀と優については、30%以内を目安にすることが合意されている【資料5-3-②-B】。また、個々の授業科目における評価方法・基準等は、各授業科目のシラバスに明示している【前掲資料5-2-②-F】。成績評価、単位認定は、これら規則等で定める基準に従って実施し、各部局の教務委員会等関係委員会及び教授会で附議している。

資料5-3-②-A 成績評価基準について**（成績評価基準等の明示等）**

第39条の2 学部は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学部は、学習の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

（単位の授与）

第40条 一つの授業科目を履修した者には、学力試験及び出席状況その他によって認定の上、単位を与える。

出典：熊本大学学則から抜粋

資料5-3-②-B 厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken>

厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について

平成26年 2月20日 熊本大学教務委員会

1. 目的

予め授業計画書に明示した授業の到達目標と評価方法・基準に基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行なうことにより、本学における教育の質を担保するとともに、社会からの信頼性を確保する。

2. 成績評価の区分

- (1) 成績評価は5段階による評価区分とし、合格は秀(100点~90点)、優(89点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)と表示し、不合格は不可(59点~0点)と表示する。ただし、授業形態(演習・実習等)、科目の特性(インターンシップ等)などにより5段階評価が困難な場合には、柔軟な評価区分を行なうことができるものとする(例:合格・不合格)。
- (2) 秀・優・良・可の区分については、成績分布の著しい偏在に留意するものとする。特に秀・優については合わせて30%以内を目安とし、厳格で客観的・公正な成績評価に努めるものとする。
- (3) 共通科目・同一名称科目(語学・理系基礎科目等)の成績評価の基準・方法については、担当教員間で十分に協議をして設定するものとする。

3. 成績評価方法の公表

- (1) 成績評価の基準・方法については、年度当初に授業計画書で公表するものとする。
- (2) 期末試験だけによる評価でなく、小テスト、レポート、ディスカッション、授業への参加度等も含めた総合評価に努め、評価要素ごとに評価割合を明示する(例:試験80%、ディスカッション20%)。

4. 成績評価結果の説明

- (1) 成績評価の結果については、講評会・Web掲示等により、試験結果の講評や模範答案(優秀答案)の掲示に努めるものとする。
- (2) 答案の採点は予め作成された採点基準に基づくものとし、答案は採点基準を添えて学生へ返却するように努めるものとする。
- (3) 教員(又は所属部局)は、答案(写し)を5年間保管しなければならない。

5. GPAの全学的共有

学部等は、厳格で適正な成績評価を实践し、進級・卒業時の学力を測る尺度として、GPAの活用に努めるものとする。

6. 成績評価に関する質問・疑問の受け付け

成績発表後、一定期間を設けて、教員は学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付け、真摯に対応するものとする。

7. 成績評価の異議申し立て

成績評価に関する質問・疑問に対する教員の説明では解決が得られなかった場合は、予め決められた一定期間内において、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行なう場合には、所定の期間内に、関係部局等の定める手続きに拠り、「成績評価に関する異議申立書」(所定の様式による)を、事務担当係へ提出するものとする。

出典:熊本大学教務委員会資料から抜粋

【分析結果とその根拠理由】

本学において、成績評価基準は、学則等に定めており、学則等を学生便覧に収録することにより学生に明示するとともに、履修ガイダンス等において学生に周知している。成績の可及び不可の判定は絶対評価で行われ、それ以上の成績については相対評価とし、秀と優は30%以内を目安にして秀、優、良、可の区分の偏在に留意している。また、個々の授業科目における評価方法・基準等は、各授業科目のシラバスに明示し、成績評価、単位認定については各部局等の関係委員会及び教授会で審議されている。

以上により、成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されていると判断する。

観点 5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

本学では、成績評価の厳格性や客観性を担保するために「厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について」を定め、これに従って成績評価等を行っている【前掲資料 5-3-②-B】。「厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について」において、全学教務委員会で絶対評価と相対評価についてのメリット・デメリットを議論した結果、絶対評価を基本とし、成績分布の著しい偏在に留意することとしている。また、授業担当教員からの成績発表の後、成績評価について異議がある学生は、質問及び疑問について書面等により受付し、担当教員からの説明を受けても解決が得られなかった場合に学部長に異議申立てができる制度を設けており、掲示及び学生便覧に掲載することにより学生に周知している【資料 5-3-③-A】。

資料 5-3-③-A 成績評価に係る異議申し立ての告示 (例示：法学部)

告 示		平成 26 年 7 月 17 日				
学 生 諸 君 へ		法 学 部 長				
<p>本学では、成績評価をより厳格に行う活動に取り組んでいます。 その一環として、従来にならい、質問や疑問がある場合は、下記により受け付けます。 また、それでは解決できなかったときは、新たに、異議申し立てを受け付けることとしましたので、お知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p>						
<p>【質問及び疑問の受付】 履修した授業科目の成績評価について、当該授業担当教員に対する質問及び疑問を受け付けます。</p>						
<p>1. 期 間</p> <p style="padding-left: 20px;">9月卒業予定者 : 平成 26 年 8 月 20 日(水) ~ 8 月 21 日(木) 9月卒業予定者以外 : 平成 26 年 9 月 26 日(金) ~ 9 月 30 日(火)</p>						
<p>2. 場 所</p> <p style="padding-left: 20px;">法学部教務担当</p>						
<p>3. 方 法</p> <p style="padding-left: 20px;">書面の提出によります。書類は法学部教務担当に用意してあります。</p>						
<p>【異議申し立ての受付】 履修した授業科目の成績評価に異議がある場合は、次により申し立てを受け付けます。</p>						
<p>1. 期 日</p> <p style="padding-left: 20px;">9月卒業予定者 : 平成 26 年 8 月 22 日(金) ~ 8 月 25 日(月) 9月卒業予定者以外 : 平成 26 年 10 月 1 日(水) ~ 10 月 2 日(木)</p>						
<p>2. 場所・審議委員会等</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; width: 80%;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%; text-align: center;">受付係</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">専門教育の科目</td> <td style="text-align: center;">法学部教務担当</td> </tr> </table>				受付係	専門教育の科目	法学部教務担当
	受付係					
専門教育の科目	法学部教務担当					
<p>3. 方 法</p> <p style="padding-left: 20px;">書面 (学生便覧所定の様式) の提出によります。書類は法学部教務担当に用意してあります。</p>						
<p>【成績の確認、履修科目の追加登録・変更】</p> <p>① 成績に変更があった場合は、SOSEKI により必ず確認してください。</p>						

② 成績が変更されたことに伴い、履修科目の追加登録や変更の必要性が生じた場合は、専門教育の科目については当該学部の教務担当、教養教育の科目については学務ユニット教育支援チーム教養教育担当に相談してください。

出典：法学部調査資料を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

本学では、全学教務委員会において「厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について」を定め、可及び不可の判定は絶対評価、それ以上の成績については相対評価により成績評価等を行い、成績分布の著しい偏在に留意している。また、授業担当教員からの成績発表の後、成績評価について異議がある学生は、質問及び疑問について書面等により受付し、担当教員からの説明を受けても解決が得られなかった場合に学部長に異議申立てができる制度を設けている。

以上のことから、成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられていると判断する。

観点 5-3-④： 学位授与方針に従って卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って卒業認定が適切に実施されているか。

【観点到係る状況】

本学では、学則第 58 条により規定する年限以上在学し、かつ、学部所定の教育課程を履修し卒業に必要な単位を修得することを卒業要件として定め、各学部等規則において卒業の要件を定めている【資料 5-3-④-A】。学生には、学生便覧・本学公式ウェブサイト等で周知している【資料 5-3-④-B】。各学部の卒業要件については、それぞれの学位授与方針に沿った教育プログラムのカリキュラムを履修し卒業に必要な単位を修得することとなっており、卒業認定は、本学教授会規則第 2 条に基づき、各学部教授会で卒業判定について審議され、学則第 61 条に基づき、学年又は学期の終わりに学長が卒業認定を行っている【資料 5-3-④-C】。

資料 5-3-④-A 卒業の要件

学則第 58 条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000189.htm>

文学部の例

(卒業の要件)		
第 16 条 本学部を卒業するためには、4 年以上在学し、次の表に定めるところにより、教養教育の単位と専門教育の単位を合わせて 124 単位以上を修得しなければならない。		
区分		単位数
教養教育	共通基礎科目	16 単位
	必修外国語科目	
	自由選択外国語科目	18 単位以上
	教養科目	
社会連携科目 開放科目		
専門教育	専門基礎科目	14 単位以上
	専門科目	70 単位以上

出典：熊本大学文学部規則より抜粋

資料5-3-④-B 学生便覧

熊本大学 学生案内・学生便覧

利用権限:教職員

学生案内

[ダウンロード](#)

学生便覧

年度:

所属:

年度	所属	区分	ダウンロード
2015	文学部	専門	ダウンロード
2015	文学部	教養	ダウンロード
2015	教育学部	専門	ダウンロード
2015	教育学部	教養	ダウンロード
2015	法学部	専門	ダウンロード
2015	法学部	教養	ダウンロード
2015	理学部	専門	ダウンロード
2015	理学部	教養	ダウンロード
2015	工学部	専門	ダウンロード
2015	工学部	教養	ダウンロード
2015	医学部	専門	ダウンロード
2015	医学部	教養	ダウンロード
2015	薬学部	専門	ダウンロード
2015	薬学部	教養	ダウンロード
2015	教育学研究科		ダウンロード
2015	社会文化科学研究科		ダウンロード
2015	自然科学研究科		ダウンロード
2015	医学教育部		ダウンロード
2015	保健学教育部		ダウンロード
2015	薬学教育部		ダウンロード
2015	法曹養成研究科		ダウンロード
2015	義護教諭特別学科		ダウンロード
2015	特別支援教育特別専攻科		ダウンロード

出典：熊本大学公式ウェブサイト（学内専用）から抜粋

資料5-3-④-C 卒業の認定

- ・学則第61条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000189.htm>
- ・教授会等規則第2条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000272.htm>

【分析結果とその根拠理由】

本学では、学則、各学部等規則において、学位授与方針に沿った教育プログラムのカリキュラムを履修し、必要な単位を修得する卒業の要件が定められており、学生には、学生便覧・本学公式ウェブサイト等で周知されている。卒業認定は、学則及び本学教授会規則に基づき各学部の教授会で審議され、学長が卒業を認定している。

以上により、学位授与方針に従って卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って卒業認定が適切に実施されていると判断する。

<大学院課程（専門職学位課程を含む。）>

観点 5-4-①： 教育課程の編成・実施方針が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

教育課程の編成方針については、熊本大学大学院学則において、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに学位論文の作成等に対する指導の計画を策定し、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう体系的に教育課程を編成するものと定めている。また、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、博士前期課程と博士後期課程を一貫して行う教育を実施する博士課程教育リーディングプログラムの開設、多面的な価値への理解力、柔軟な思考力及び鳥瞰的に事物を把握する力を有し、高度な知的基盤領域において新機軸を切り拓く力を備えた人材を育成するために、大学院共通の大学院教養教育プログラムを開設し、その教育課程が編成できることを定めている【資料5-4-①-A】。平成24年度には、大学院課程における大学院生の4つの修得すべき知識・能力を柱に「人材育成像並びに学位授与の方針」を策定し、平成25年度に教育プログラム毎の「人材育成像並びに学位授与の方針」を策定した【後掲資料5-6-①-A、後掲資料5-6-①-B】。この「人材育成像並びに学位授与の方針」に沿って、大学院の各専攻、講座及びコース毎にそれぞれの知識や能力を養成するため、カリキュラムの編成方針を示すカリキュラム・ポリシーを、平成26年度に策定した【資料5-4-①-B】。

資料5-4-①-A 大学院課程における教育課程の編成方針

大学院学則第23条の2～4：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame11000190.htm>

資料5-4-①-B 研究科等のカリキュラム編成方針

学部・専攻等名	カリキュラム編成方針
教育学研究科	
学校教育実践専攻（修士課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakukenyuuka/gakkoukyouiku
教科教育実践専攻（修士課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakukenyuuka/kyoukakyouiku
社会文化科学研究科	
公共政策学専攻（博士前期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/koukyouseisakugaku
法学専攻（博士前期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/hougaku
現代社会人間学専攻（博士前期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/gendaisyakainingengaku
文化学専攻（博士前期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/bunkagaku
教授システム学専攻（博士前期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/kyoujyusisutemugaku
人間・社会科学専攻（博士後期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/ningensyakaikagaku
文化学専攻（博士後期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/bunkagaku-kouki
教授システム学専攻（博士後期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/kyoujyusisutemugaku-kouki
自然科学研究科	
理学専攻(博士前期課程)	
物理学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/rigaku-buturikagaku
化学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/rigaku-kagaku
地球環境科学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/rigaku-tikyukankyokagaku
生命科学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/rigaku-seimeikagaku

数学専攻(博士前期課程)	
基礎数理コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/suugaku-kisosuuri
応用数理コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/suugaku-ouyousuuri
複合新領域科学専攻(博士前期課程)	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/fukugousinryouikikagaku
物質生命化学専攻(博士前期課程)	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/bussituseimeikagaku
マテリアル工学専攻(博士前期課程)	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/material
機械システム工学専攻(博士前期課程)	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/kikaisystem
情報電気電子工学専攻(博士前期課程)	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/jyohodenkidensikougaku
社会環境工学専攻(博士前期課程)	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/syakaikankyokougaku
建築学専攻(博士前期課程)	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/kentikugaku
理学専攻(博士後期課程)	
数理科学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/riugaku-suurikagaku
物理科学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/riugaku-buturikagakukouza
化学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/riugaku-kagakukouza
地球環境科学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/riugaku-tikyukankyokagakukouza
生命科学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/riugaku-seimeikagakukouza
複合新領域科学専攻(博士後期課程)	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/fukugousinryouikikagaku-kouki
産業創造工学専攻(博士後期課程)	
物質生命化学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/sangyosouzokougaku-busituseimeikagaku
マテリアル工学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/sangyosouzokougaku-materialkougaku
先端機械システム講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/sangyosouzokougaku-sentankikaisystem
機械知能システム講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/sangyosouzokougaku-kikaitinuousystem
情報電気電子工学専攻(博士後期課程)	
先端情報通信工学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/jyohodenkidensikougaku-sentanjyohotuusinkougaku
機能創成エネルギー講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/jyohodenkidensikougaku-kinouseienergy
人間環境情報講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/jyohodenkidensikougaku-ningenkankyojyoho
応用数理講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/jyohodenkidensikougaku-ouyousuuri
環境共生工学専攻(博士後期課程)	
広域環境保全工学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/kankyokyosei-kouikikankyojozen
社会環境マネジメント講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/kankyokyosei-syakaikankyo
人間環境計画学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/kankyokyosei-ningenkankyo

		okyosei-ningenkankyo
	循環建築工学講座	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/kankyokyosei-jyunkankentiku
医学教育部		
	医科学専攻（修士課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/igakukyoubu/igaku-syuusi
	医学専攻（博士課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/igakukyoubu/igaku-hakase
保健学教育部		
	保健学専攻（博士前期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hokengakuyoubu/hokengaku-zenki
	保健学専攻（博士後期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hokengakuyoubu/hokengaku-kouki
薬学教育部		
	創薬・生命薬科学専攻（博士前期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/yakugakuyoubu/souyakuseimeiyakagaku-zenki
	創薬・生命薬科学専攻（博士後期課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/yakugakuyoubu/souyakuseimeiyakagaku-kouki
	医療薬学専攻（博士課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/yakugakuyoubu/iryoyakugaku-hakase
法曹養成研究科		
	法曹養成専攻（専門職学位課程）	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hosoyousei/hosoyousei

【分析結果とその根拠理由】

本学の教育課程の編成方針については、熊本大学大学院学則に基づき研究科等が教育上の目的を達成するため、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう体系的に教育課程を編成するものとしている。また、博士課程教育リーディングプログラム、大学院教養教育プログラムを開設し、その教育課程が編成できることを定めている。平成26年度には、各専攻、講座及びコースの教育プログラム毎に策定された「人材育成並びに学位授与の方針」に沿ってカリキュラムの編成方針を示すカリキュラム・ポリシーを策定している。

以上により、教育課程の編成・実施方針が明確に定められていると判断する。

観点5-4-②： 教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。

【観点に係る状況】

本学大学院の教育課程は、平成24年度に策定された大学院生の4つの修得すべき知識・能力として①高度な専門的知識・技能及び研究力、②学際的領域を理解できる深奥な教養力、③グローバルな視野と行動力、④地域社会を牽引するリーダー力を柱に各研究科等が人材育成の養成について策定したカリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムを編成しており【前掲資料5-4-①-B、資料5-4-②-A】、法曹養成研究科においては、学生便覧及び本学公式ウェブサイトで履修モデルを示しており、社会文化科学研究科においても、一部のコースで履修モデルを本学公式ウェブサイトで示している【資料5-4-②-B】。各研究科等の専攻等毎の特性に応じた当該カリキュラムを学習し、修了に必要な要件を満たした者は、研究科等に応じて授与する学位の別及び学位に付す専攻分野の名称について定められた本学学位規則に基づき学位を授与することとしている【資料5-4-②-C】。

資料5-4-②-A 研究科等の教育課程編成の特徴

研究科等	課程区分	専攻等	教育課程編成の特徴
教育学研究科	修士課程	学校教育実践専攻	「実践性・学際性・現代性」という3つの理念に基づく教育課程の編成を通して、本専攻では、学級経営、特別支援、健康教育等に係る高度な実践的指導力と学際的・総合的指導力を養成する。
		教科教育実践専攻	「実践性・学際性・現代性」という3つの理念に基づく教育課程の編成を通して、本専攻では、「確かな学力」等に係る高度な実践的教科指導力と学際的・総合的教科指導力を養成する。
社会文化科学研究科	博士前期課程	公共政策学専攻	公共政策を担う専門家のための「公共政策専門職コース」と、政策学の研究を目指す「政策研究コース」の、2つの教育コースからなっている。前者は、高度専門職業人として公共政策に関する理論や政策分析能力、政策形成のための知識と技術、企画・運営能力を兼ね備えた実践力のある政策のプロフェッショナルを養成する。後者は、政策学の基礎的研究と、幅広い視野とスキルを兼ね備えた国際的に通用する政策の研究者を養成する。
		法学専攻	「社会の法化」と呼ばれる現代社会において、幅広くかつ深い法律知識をもった法律実務家や法律学についての基礎的な研究能力をもった人材が求められている。このような社会的ニーズに応えるため、本専攻は、現代社会に生起する複雑多様化した法的諸問題の解決を図る高度専門職業人（司法書士、税理士、社会保険労務士）を養成する「法律系専門職コース」と、社会の法化に対応した知的創造者（教育研究職希望者、公務員、企業法務担当者等）を養成する「法学研究コース」という2つの教育プログラムを提供する。
		現代社会人間学専攻	社会の大きな変動により、社会と人間を理解する枠組みにも、倫理規範、社会関係の調整および組織経営のあり方にも、様々の新しい現代的な課題が生じている。そこで、既存の文学部系と法学部系の分野を組み直し、外部からも新しいスタッフの参加と協力を得て、新しい専攻を立ち上げ、それが現代社会人間学専攻である。この専攻は、新しい人材ニーズに応える「交渉紛争解決・組織経営専門職コース」および「東アジア・ビジネス・コミュニケーション専門職コース」、新しい課題に取り組む「先端倫理学研究コース」、「フィールドリサーチ研究コース」および「認知哲学・心理学研究コース」の5つのコースが設けられている。
		文化学専攻	本専攻は、歴史学・考古学・民俗学・言語学・文学等の諸領域において、学術的知見を基盤に実践的能力を養い高度専門職業人を育成する（1）文化行政・学芸員専門職、（2）高校国語教員専門職、（3）英語教育専門職の3コース、及び各学術領域の研究の基礎を修め、引き続き博士後期課程において専門を深めうる研究の担い手を育成する（1）歴史学研究、（2）日本・東アジア文化学研究、（3）欧米文化学研究の3コースを置く。
		教授システム学専攻	本専攻は、教育や学習の効果・効率・魅力を高めるシステム的な方法論であるインストラクショナル・デザイン（ID）を中核に教授システム学を学び、eラーニングを実際に開発・実施・評価できる高度専門職業人を養成することを目的とする。
		博士後期課程	人間・社会科学専攻
文化学専攻	博士前期課程の文化学専攻を受けて、歴史学、考古学、民俗学、語学、文学等の文化学諸領域、及びそれらを融合して構築される諸領域において、学術研究の発展とその担い手の育成を図る。		
教授システム学専攻	インストラクショナル・デザインを中核とし、情報技術等の領域を総合することにより、教育効果・効率・魅力の高いeラーニングを開発・実施・評価する担い手の育成を図る。		
自然科学研究科	博士前期課程	理学専攻	学位授与の方針に沿って各専攻で科目群を配置している他、プロジェクトゼミナール等の全専攻共通科目、GJECにおける他大学や企業、および海外の研究機関との連携による教育・研究指導体制、他研究科開講科目の単位認定制度や他大学との単位互換制度、および多くの非常勤講師による集中講義開講により、多様化する情報社会において、学生が自ら必要とする科目群を受講できる体制を整え、自分の専門分野を俯瞰できる高度な異分野融合力を備えた人材育成のための基盤が構築できていると判断する。IJEPでは、全面英語による教育・研究指導を行っている。英語により講義する専門教育科目数も増加していることもあり、留学生が安心して入学でき、また日本人学生も留学生との交流を通して国際的感性を身につけている。MOTや企業との連携による研究指導により社会のニーズに対応した人材育成も行っている。
		数学専攻	
		複合新領域科学専攻	
		物質生命化学専攻	
		マテリアル工学専攻	
		機械システム工学専攻	
情報電気電子工学専攻			

	博士後 期課程	社会環境工学専攻	
		建築学専攻	
		理学専攻	
		複合新領域科学専攻	
		産業創造工学専攻	
		情報電気電子工学専攻	
環境共生工学専攻			
医学教育部	修士課程	医科学専攻	講義科目 13 科目、実習科目 1 科目、医学実験講座 1 科目、セミナー 1 科目、研究指導科目 2 科目を設置しており、医科学における高度の専門的知識及び能力を修得させる体系的な教育課程の編成となっている。オムニバス形式の講義と、マンツーマン教育による研究指導を中心としたカリキュラムである。また、博士課程教育リーディングプログラム (HIGO プログラム) を設置し、健康生命科学のリーダーとなれる人材を修士課程から育成している。
	博士課程	医学専攻	理論 (講義) 科目として 19 科目、セミナーシリーズとして 3 科目、コースワーク科目として 2 科目、研究指導科目として 3 科目 (実践 I・II・III) を設置しており、医学・生命科学における高度の専門的知識及び能力を修得させる体系的な教育課程の編成となっている。オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムである。また、医学専攻内に発生・再生医学研究者の育成コース、代謝情報学研究者および、がん博士の育成プログラム、博士課程教育リーディングプログラム (HIGO プログラム) といったユニークな教育コースとプログラムを設置し、医学・生命科学及び健康生命科学における優秀な人材を育成している。
保健学教育部	博士前期課程	保健学専攻	博士前期課程では、保健・医療・福祉領域における指導の高度専門職業人の養成を目的として、一般学生ならびに医療現場の社会人でも学びやすい教育プログラムを編成している。
	博士後期課程	保健学専攻	博士後期課程では、看護学、医用放射線科学及び検査技術科学の各分野の知識・技術をより発展させ、かつ統合することにより、幅広い視野・知識・技術を有する研究者・教育者を養成するプログラムを編成している。
薬学教育部	博士前期課程	創薬・生命薬科学専攻	創薬・生命薬科学専攻 (博士前期課程) は、創薬科学分野及び生命科学分野の先端的研究者並びに医薬品の開発において、先端的な役割を担う研究者及び技術者を養成することを目的とする。
	博士後期課程	創薬・生命薬科学専攻	創薬・生命薬科学専攻 (博士後期課程) は、独創的な発想力、探究心、創薬マインドを育みながら、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、生命科学を中心とした基盤的学問における知識・技能を礎として、自らの専門領域において卓越した研究能力を発揮できると同時に、創薬科学・生命科学を俯瞰的に捉えて問題設定・問題解決を自主的に行い、先端的研究や医薬品開発の場において指導能力を発揮できる人材を育成することを目的とする。
		医療薬学専攻	医療薬学専攻には臨床薬学コースと医療薬科学コースの 2 コース、創薬・生命薬科学専攻にはメディシナルケミストリー、バイオファーマ、ドラッグデリバリー、ライフサイエンスコースの 4 コースを設置している。また、臨床教授・先端薬学教授を任命し、先端的・実践的な大学院教育を推進しており、大学院生を海外の大学や企業に派遣し、国際的に活躍できる人材を育成することを目的とする。
法曹養成研究科	専門職学位課程	法曹養成専攻	法曹養成研究科は、授業科目を法律基本科目群、法律実務基礎科目群、基礎法学・隣接科目群、展開・先端科目群の 4 つの科目群に大別して、それぞれに段階的・系統的な編成とし、法曹として自らの頭で考えていく能力ならびに豊かな人間性、幅広い教養、専門的資質・能力及び高い倫理観を備えた質の高い法曹の養成を目指している。

出典：各研究科等調査資料を基に作成

資料5-4-②-B 法曹養成研究科及び社会文化科学研究科現代社会人間学専攻交渉紛争解決・組織経営専門職コースの履修モデル

○法曹養成研究科 (<http://www.ls.kumamoto-u.ac.jp/education/curriculum.html>)

履修モデル

○社会文化科学研究科 現代社会人間学専攻 交渉紛争解決・組織経営専門職コースの履修モデル
(<http://www.gsscs.kumamoto-u.ac.jp/edu/zenki/gen/01/outline/04.html>)

履修モデル

履修の仕方は多種多様。目的に合わせて組み合わせ自由。

医療組織のマネジメント、企業組織のマネジメント、ADRのプロフェッショナル・・・ 目指すものに合わせて柔軟に履修を組めます。1年次は基礎の定着を目指し、2年次はより専門的に深く学べるように授業を配置しております。

1. 医療事故紛争マネジメントを担当しうる能力の習得を目指す履修例

年次	授業科目	単位	年次	授業科目	単位
1	コミュニケーション論	2	2	生命環境倫理論 I	2
	実践的人間学	2		医療と法 II	2
	マネジメント	2		医療経営論	2
	紛争ケース分析 I	2		特別研究 II (修士論文作成)	4
	交渉の理論と技法	2			
	医療リスクマネジメント	2			
	メデイエーションの理論と技法	2			
	医療と法 I	2			
	特別研究 I (タームペーパー作成)	4			
修士論文	交渉と紛争解決、コミュニケーション、社会的実践数知などに関する実践的・理論的テーマ、組織経営、リスクマネジメントに関するテーマ、医療リスク・マネジメントや医療紛争事故マネジメント、医療メデイエーションに関するテーマ、医療と法に関するテーマなど。				

出典：熊本大学公式ウェブサイトから抜粋

資料5-4-②-C 学位授与要件

(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/sotugyoyouken/daigakuin>)

研究科等	課程区分	専攻等	学位	単位数等
教育学研究科	修士課程	学校教育実践専攻	修士(教育学)	修士課程に2年以上在学し、授業科目について履修基準により32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。
		教科教育実践専攻		
社会科学部	博士前期課程	公共政策学専攻	修士(公共政策学、学術)	博士前期課程においては、当該課程に2年以上在学し、定められた授業科目のうちから30単位以上、博士後期課程にあつては、当該課程に3年以上在学し、定められた授業科目のうちから14単位(教授システム学専攻にあつては16単位)以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。
		法学専攻	修士(法学)	
		現代社会人間学専攻	修士(文学、法学、学術)	
		文化学専攻	修士(文学)	
		教授システム学専攻	修士(教授システム学、学術)	
	博士後期課程	人間・社会科学専攻	博士(文学、法学、公共政策学、学術)	
		文化学専攻	博士(文学、学術)	
自然科学部	博士前期課程	理学専攻	修士(理学、学術)	博士前期課程においては、当該課程に2年以上在学し、定められた授業科目のうちから31単位以上、博士後期課程にあつては、当該課程に3年以上在学し、定められた授業科目のうちから12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。
		数学専攻		
		複合新領域科学専攻	修士(理学、工学、学術)	
		物質生命化学専攻	修士(工学、学術)	
		マテリアル工学専攻		
		機械システム工学専攻		
		情報電気電子工学専攻		
		社会環境工学専攻		
		博士後期課程	理学専攻	
	複合新領域科学専攻		博士(理学、工学、学術)	
	産業創造工学専攻		博士(工学、学術)	
	情報電気電子工学専攻			
	環境共生工学専攻			
	医学教育部	修士課程	医科学専攻	
博士課程		医学専攻	博士(医学、生命科学、健康生命科学)	
保健学部	博士前期課程	保健学専攻	修士(看護学、保健学)	博士前期課程においては、当該課程に2年以上在学して、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。博士後期課程においては、当該課程に3年以上在学して、12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
	博士後期課程	保健学専攻	博士(看護学、保健学)	
薬学部	博士前期課程	創薬・生命薬科学専攻	修士(薬科学、健康生命科学)	博士前期課程においては、当該課程に2年以上在学し、定められた授業科目のうちから34単位以上、博士後期課程にあつては、当該課程に3年以上在学し、定められた授業科目のうちから16単位以上、博士課程にあつては、当該課程に4年以上在学し定められた授業科目のうちから32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、
	博士後期課程	創薬・生命薬科学専攻	博士(薬科学、生命科学、健康生命科学)	

	博士課程	医療薬学専攻	博士（薬学、生命科学、健康生命科学）	学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
法曹養成研究科	専門職学位課程	法曹養成専攻	法務博士（専門職）	法科大学院の課程に3年以上在学し、定められた授業科目のうちから93単位以上を修得し、かつ、法曹養成研究科が別に定める基準を満たすこととする。

出典：熊本大学公式ウェブサイトから抜粋

【分析結果とその根拠理由】

大学院の教育課程は、平成24年度に策定された大学院生の4つの修得すべき知識・能力を柱に、各研究科等が人材育成に即した人材の養成について策定したカリキュラム・ポリシーに基づいて教育課程が編成されており、法曹養成研究科及び社会文化科学研究科の一部のコースで履修モデルを本学公式ウェブサイトに掲載している。また、各研究科等の専攻等毎の特性に応じて編成されたカリキュラムを学習し、修了に必要な要件を満たした者には、本学学位規則に基づき、学位を授与している。

以上により、教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっていると判断する。

観点5-4-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点到に係る状況】

教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対し次のような配慮をしている。大学院学則第9条の2において、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することができる長期履修、第29条において、外国の大学院を含む他の大学院との単位互換、第31条において、入学前の既修得単位の取扱い、第36条において、転研究科、転教育部及び転専攻等を定め実施している。平成24年度には、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」において、健康生命科学の知識を持ちつつ、九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけてグローバルかつローカルに様々な課題を解決できる次世代リーダーの育成を行っている。具体的には、医学と薬学の2つの大学院にまたがる専門科目の履修、大学院社会文化科学研究科の専門科目「社会文化科学総論」とキャリアビジョン開発コースの履修、企業・行政セミナー、企業・行政・海外のインターンシップなど、自分らしい将来像を実現させるためのカリキュラムを組み込んでいる。また、本学では、実用金属中最も軽く、従来にない優れた強度と耐熱性を持つ革新的な「KUMADAI マグネシウム合金」を開発しており、その先進マグネシウム合金開発技術は世界最大手のボーイング社など航空機産業界から特に注目されており平成26年度から同社との共同研究が開始されている。この研究は、例えば大学院自然科学研究科のプロジェクトゼミ（次世代マグネシウム合金の創製加工）として、材料設計、製造・加工、リサイクルまでの多角的視点から次世代マグネシウム合金の開発に従事できる人材の育成を目的とした教育に活かされている。その他、医学教育部においては、社会人学生への配慮として、授業科目全体の約6割について、eラーニングコンテンツを作成し、学生が自由な時間に視聴（受講）できるよう整備している。薬学教育部においては、優れた研究能力と臨床薬剤師としての職能を併せ持つ人材の育成が社会的に期待されていることから、医療薬学専攻博士課程において、幅広い知識と技能、臨床現場での実践的能力を身につけた先導的薬剤師の養成を目指す「臨床薬学コース」、薬剤師業務を理解できる基礎研究者、

開発研究者、治験コーディネーター（CRC）、教育者の養成を目指す「医療薬科学コース」の2つの教育課程が編成されている。法曹養成研究科では、法律事務所・企業・自治体とのエクスターンシップを授業科目に取り込み、法を通しての法律関連書面の作成など実務を体験することにより生きた素材の中での法曹倫理を学ぶ授業科目となっている【別添資料13、資料5-4-③-A】。

別添資料13 各研究科等における学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮した教育課程の編成等

資料5-4-③-A 文部科学省「国公私立大学を通じた大学教育改革の支援」事業等

学部等名	期間	事業名	実施状況（支援終了後展開を含む。）
社会文化科学研究科	H19～21	大学院教育改革支援プログラム（IT時代の教育イノベーター育成プログラム）	現実社会的な問題に直面する状況を疑似体験しながらその解決方法を学習できるストーリー型カリキュラム（SCC）を実施し、受講生アンケートからも高い評価を得ている。今後において、SCCを科目として単位化することを決定し、SCC体験に加えて統合的なカリキュラム設計演習に取り組みさせる科目も開設した。
自然科学研究科	H19～21	大学院教育改革支援プログラム（大学院科学技術教育の全面英語化計画）	講義実施形態調査では、カテゴリーⅢ（全て英語）での講義が（博士課程前期H18年度10%からH22年度16%、博士課程後期H18年度16%からH22年度26%）順調に進展。今後は若手教員を対象とした英語による教授法習得のための海外研修やFDセミナーの検討も必要である。
薬学教育部	H19～21	大学院教育改革支援プログラム（創薬研究者養成プログラム）	本プログラムで、製薬企業の研究リーダーや創薬系ベンチャー企業経営者などによるカリキュラム委員会を設置し、全講義・実習の準備を行い、大学院教育に反映させた。結果、博士前期課程から博士課程への進学者がかなり増加し、社会が求める創薬研究者の養成に寄与している。
医学教育部	H20～22	大学院教育改革支援プログラム（臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践）	臨床医学系、基礎医学系、社会医学系の大学院学生がそれぞれ異なる研究活動に触れ、新しい知識・技術を習得し、人とのつながりを築くことを促進した。また、国際的人材の育成面において、学会発表（H19:58回からH22:129回）、論文発表（H19:157件からH22:262件）の増加に寄与している。
自然科学研究科	H21～23	組織的な大学院教育改革推進プログラム（イノベーション創出のための大学院教養教育）	外国語リテラシー教育プログラムなど3つの教養教育プログラムを集中講義などで開講し、インターンシップ等積極的に参加している傾向が見られ、特に国外へ多く出向いて行っている。
医学教育部・薬学教育部	H24～30	博士課程教育リーディングプログラム（複合領域型）	本プログラムの人材育成像・・・①九州・アジア・世界で保健行政、医療行政、薬事行政に携わるリーダー、②アジアに展開する健康生命関連企業で活躍するリーダー、③国際的に活躍する健康生命科学分野の教育研究リーダー 専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した学位プログラムを構築するとともに、博士論文研究基礎力審査導入を見越して規則整備を行った。
医学教育部	H24～28	「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」 「(A) 医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」	学部学生が大学院授業科目を先取り履修可能となる制度を導入し、規則整備を行った。

出典：各部局調査資料を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

教育課程の編成又は授業科目の内容において、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し課程を修了する長期履修、他大学との単位互換、入学前の既修得単位の取扱い、文部科学省の「博士課程教育リーディングプ

プログラム」採択によるグローバルかつローカルに様々な課題を解決する次世代リーダーの育成、あるいは世界的な注目を集め本学が有している先進マグネシウム合金開発技術について多角的視点から開発に従事できる人材育成を目的とした授業科目の開講、先導的薬剤師等の養成など、様々な取組を実施している。

以上により、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮していると判断する。

観点 5-5-①： 教育の目的に照らして、講義、演習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

【観点到に係る状況】

本学の教育目標及び各研究科等の教育目的に基づき、各研究科等規則において授業科目を講義の他、演習、実験及び実習と定め、分野の特性に応じて、講義・演習・実習・実験等の組み合わせは異なっており、教育学研究科及び社会文化科学研究科は演習を中心に、医学教育部及び薬学教育部は実習及び実験を中心とした授業が多くなっている【資料5-5-①-A】。また、各研究科等は、教育内容に応じた学習指導法の工夫をしており、特に社会文化科学研究科の教授システム学専攻は、最先端のeラーニングテクノロジーを活用した遠隔学習で授業を進めることで、学習者の利便性を図りつつ、教育の効果と効率を高めることを目指したいわゆるインターネット型大学院であり、LMSにより、研究指導やプレゼンテーション等の実施とその過程を学習履歴の記録として蓄積し、指導教員と学生が記録を相互に参照できるよう整備し、効果的な指導を実施している。また、薬学教育部の医療薬学専攻臨床薬学コースでは、社会が求める即戦力としての先導的薬剤師を養成するために、臨床現場における1年にわたる実践的・先端の実習を実施している。創薬・生命薬科学専攻博士後期課程では、自主的な問題設定・問題解決能力を身につけさせるため、博士論文に直結する実験に加えて、製薬企業あるいは大学・公的機関等における研究企画評価を想定した企画書・研究計画書の作成とプレゼンテーションならびに計画に即した研究の実行を課す「課題実習」を組み込んでいる【資料5-5-①-B】。

資料5-5-①-A 研究科等別授業形態（平成26年度実績）

（単位）

学部	講義	演習	実習	実験	講義及び演習等	合計
教育学研究科	115	154	2		69	340
社会文化科学研究科	89	247	15		45	396
自然科学研究科	510	104	9	1	91	715
医学教育部	103	26	121	88		338
保健学教育部	50	21	15		20	106
薬学教育部	73	42	31	16	41	203
法曹養成研究科	81	16	6		19	122
特別支援教育特別専攻科	21	18	1		8	48
養護教諭特別別科	8	4			4	16

出典：熊本大学学務情報システム（SOSEKI）及びシラバスを基に作成

資料5-5-①-B 教育内容に応じた適切な学習指導法の例

研究科等	教育内容に応じた適切な学習指導法の例
教育学研究科	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理実習（フィールド型授業） 教科内容学特論演習II（地学）（演習、フィールドワーク） 技術課教育教材開発（ICT機器を利用した教材作成）

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科教育学実践特論 II (学校現場での授業実践) ・教科内容学特論演習 I (器楽) (個人授業) ・課題研究 (研究・論文指導) 																																																																																																																															
社会文化科学研究	特に、教授システム学専攻では、原則としてオンライン遠隔学習だけで学位を取得できるようにしており、仕事の合間に自宅や職場等で働きながら学習ができる。正・副指導教員が学生への研究指導を行うとともに、その過程を学習管理システム上の記録として蓄積し、指導教員と学生が記録を相互に参照可能な状態に置くことにより、養成しようとする人材像に応じた効果的な指導を実施している。																																																																																																																															
自然科学研究科	<p>少人数教育の例 先端科学特別講義一覧平成 26 年度開講分 (3 年間で全プロジェクトゼミナール、全教員が講義を行う)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>講義名</th> <th>教員数</th> <th>プロジェクトゼミナール名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">前期</td> <td>現代統計学の展開</td> <td>5</td> <td>現代数学ゼミナール</td> </tr> <tr> <td>現代化学シリーズ I</td> <td>8</td> <td>現代化学ゼミナール</td> </tr> <tr> <td>先端情報通信技術</td> <td>10</td> <td>柔構造コンピューティングの創成と展開ゼミナール</td> </tr> <tr> <td>スマート SI の創成 (2)</td> <td>6</td> <td>スマートシステムインテグレーションの創成ゼミナール</td> </tr> <tr> <td>建築業務における情報共有とコラボレーションの技術</td> <td>7</td> <td>建設コラボレーション技術ゼミナール</td> </tr> <tr> <td>建築構造・材料の先端技術</td> <td>6</td> <td>耐震建築ゼミナール</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">後期</td> <td>マイクロからマクロまでの各階層とそれをつなぐ物理学</td> <td>6</td> <td>物理学ゼミナール</td> </tr> <tr> <td>現代化学シリーズ II</td> <td>7</td> <td>現代化学ゼミナール</td> </tr> <tr> <td>ナノ科学をベースとした先端材料</td> <td>5</td> <td>複合ナノ創成科学ゼミナール</td> </tr> <tr> <td>X線CTの工学的応用</td> <td>9</td> <td>X-Earthゼミナール</td> </tr> </tbody> </table> <p>多様なメディアを高度に利用した授業の例</p> <p>【博士後期課程】 マルチモーダル情報処理特論 (シラバス抜粋)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目</th> <th>時間割コード</th> <th>選択/必修</th> <th>単位</th> <th>開講年次</th> <th>学期</th> <th>曜日時限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マルチモーダル情報処理特論 Multi-modal Information Processing</td> <td>64330</td> <td>選択</td> <td>2</td> <td>1・2・3年</td> <td>前期</td> <td>月・3</td> </tr> <tr> <td colspan="7">担当教員</td> </tr> <tr> <td>授業目標</td> <td colspan="6">複数のモダリティを人間は同時に有機的に利用しています。この機能を人間・機械系で利用するための研究について、聴覚を中心に、視覚等の感覚情報処理について基本的な知識を習得するとともに、その応用について、履修者自身の研究テーマと結びつけて展開することができることを目標とする。</td> </tr> <tr> <td>授業内容</td> <td colspan="6">個別ゼミ形式で、論文等の調査収集を行うとともに、自らの研究テーマと結びつけて議論を展開する。授業内容は、対面型のゼミおよびeラーニング (教材はすべて英語) やメールを利用した遠隔非同期の講義およびディスカッションからなる。</td> </tr> <tr> <td>授業形態</td> <td colspan="6">個別ゼミ形式</td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="6">特定のテキストには限定されない。</td> </tr> <tr> <td>参考書</td> <td colspan="6">淀川、東倉、中根、"視覚の認知科学"、電子情報通信学会編、ISBN 4-88552-151-3 DeLiang Wang & Guy J. Brown, "Computational Auditory Scene Analysis" Wiley Inter-science, ISBN 0-471-74109-4</td> </tr> <tr> <td>評価方法・基準</td> <td colspan="6">調査研究レポートに基づき、評価する。</td> </tr> <tr> <td>履修上の指導等</td> <td colspan="6">対面型のゼミのみならず、TV会議システムやメール等を利用した遠隔でのゼミにも対応可能。</td> </tr> <tr> <td>キーワード</td> <td colspan="6">聴覚、視覚、体性感覚、マルチモーダル情報処理、錯覚、計算機モデル</td> </tr> <tr> <td>事前指導</td> <td colspan="6">自分自身の研究テーマと、人間における情報処理との関係について、あらかじめ考えてから、ゼミに望んでください。</td> </tr> <tr> <td>事後指導</td> <td colspan="6">本講義での議論を、自らの研究活動に活用してほしい。</td> </tr> </tbody> </table>	区分	講義名	教員数	プロジェクトゼミナール名	前期	現代統計学の展開	5	現代数学ゼミナール	現代化学シリーズ I	8	現代化学ゼミナール	先端情報通信技術	10	柔構造コンピューティングの創成と展開ゼミナール	スマート SI の創成 (2)	6	スマートシステムインテグレーションの創成ゼミナール	建築業務における情報共有とコラボレーションの技術	7	建設コラボレーション技術ゼミナール	建築構造・材料の先端技術	6	耐震建築ゼミナール	後期	マイクロからマクロまでの各階層とそれをつなぐ物理学	6	物理学ゼミナール	現代化学シリーズ II	7	現代化学ゼミナール	ナノ科学をベースとした先端材料	5	複合ナノ創成科学ゼミナール	X線CTの工学的応用	9	X-Earthゼミナール	授業科目	時間割コード	選択/必修	単位	開講年次	学期	曜日時限	マルチモーダル情報処理特論 Multi-modal Information Processing	64330	選択	2	1・2・3年	前期	月・3	担当教員							授業目標	複数のモダリティを人間は同時に有機的に利用しています。この機能を人間・機械系で利用するための研究について、聴覚を中心に、視覚等の感覚情報処理について基本的な知識を習得するとともに、その応用について、履修者自身の研究テーマと結びつけて展開することができることを目標とする。						授業内容	個別ゼミ形式で、論文等の調査収集を行うとともに、自らの研究テーマと結びつけて議論を展開する。授業内容は、対面型のゼミおよびeラーニング (教材はすべて英語) やメールを利用した遠隔非同期の講義およびディスカッションからなる。						授業形態	個別ゼミ形式						テキスト	特定のテキストには限定されない。						参考書	淀川、東倉、中根、"視覚の認知科学"、電子情報通信学会編、ISBN 4-88552-151-3 DeLiang Wang & Guy J. Brown, "Computational Auditory Scene Analysis" Wiley Inter-science, ISBN 0-471-74109-4						評価方法・基準	調査研究レポートに基づき、評価する。						履修上の指導等	対面型のゼミのみならず、TV会議システムやメール等を利用した遠隔でのゼミにも対応可能。						キーワード	聴覚、視覚、体性感覚、マルチモーダル情報処理、錯覚、計算機モデル						事前指導	自分自身の研究テーマと、人間における情報処理との関係について、あらかじめ考えてから、ゼミに望んでください。						事後指導	本講義での議論を、自らの研究活動に活用してほしい。					
区分	講義名	教員数	プロジェクトゼミナール名																																																																																																																													
前期	現代統計学の展開	5	現代数学ゼミナール																																																																																																																													
	現代化学シリーズ I	8	現代化学ゼミナール																																																																																																																													
	先端情報通信技術	10	柔構造コンピューティングの創成と展開ゼミナール																																																																																																																													
	スマート SI の創成 (2)	6	スマートシステムインテグレーションの創成ゼミナール																																																																																																																													
	建築業務における情報共有とコラボレーションの技術	7	建設コラボレーション技術ゼミナール																																																																																																																													
	建築構造・材料の先端技術	6	耐震建築ゼミナール																																																																																																																													
後期	マイクロからマクロまでの各階層とそれをつなぐ物理学	6	物理学ゼミナール																																																																																																																													
	現代化学シリーズ II	7	現代化学ゼミナール																																																																																																																													
	ナノ科学をベースとした先端材料	5	複合ナノ創成科学ゼミナール																																																																																																																													
	X線CTの工学的応用	9	X-Earthゼミナール																																																																																																																													
授業科目	時間割コード	選択/必修	単位	開講年次	学期	曜日時限																																																																																																																										
マルチモーダル情報処理特論 Multi-modal Information Processing	64330	選択	2	1・2・3年	前期	月・3																																																																																																																										
担当教員																																																																																																																																
授業目標	複数のモダリティを人間は同時に有機的に利用しています。この機能を人間・機械系で利用するための研究について、聴覚を中心に、視覚等の感覚情報処理について基本的な知識を習得するとともに、その応用について、履修者自身の研究テーマと結びつけて展開することができることを目標とする。																																																																																																																															
授業内容	個別ゼミ形式で、論文等の調査収集を行うとともに、自らの研究テーマと結びつけて議論を展開する。授業内容は、対面型のゼミおよびeラーニング (教材はすべて英語) やメールを利用した遠隔非同期の講義およびディスカッションからなる。																																																																																																																															
授業形態	個別ゼミ形式																																																																																																																															
テキスト	特定のテキストには限定されない。																																																																																																																															
参考書	淀川、東倉、中根、"視覚の認知科学"、電子情報通信学会編、ISBN 4-88552-151-3 DeLiang Wang & Guy J. Brown, "Computational Auditory Scene Analysis" Wiley Inter-science, ISBN 0-471-74109-4																																																																																																																															
評価方法・基準	調査研究レポートに基づき、評価する。																																																																																																																															
履修上の指導等	対面型のゼミのみならず、TV会議システムやメール等を利用した遠隔でのゼミにも対応可能。																																																																																																																															
キーワード	聴覚、視覚、体性感覚、マルチモーダル情報処理、錯覚、計算機モデル																																																																																																																															
事前指導	自分自身の研究テーマと、人間における情報処理との関係について、あらかじめ考えてから、ゼミに望んでください。																																																																																																																															
事後指導	本講義での議論を、自らの研究活動に活用してほしい。																																																																																																																															

学外との共同で研究指導している例：パルスパワー科学研究所 久保田弘教授の研究室の研究指導体制を引用					
	2012年度V8 題目	担当	4年生 (担当が責任者)	副担当	共同研究
2	● 半導体超高密度触覚センサとMEMS加工プロセス研究開発 (陽極酸化穴構造)	松川	松尾	山本	キャノン
4	オパトレ	松川	全員	伊藤 山本	
5	● フラールへの電子線照射によるグラフェン形成に関する研究、 □ 次元整列電子(ナノワイヤ)に関する研究、	松川	刀根 今村	山本	産総研 東京大学 理学部物理原研
6	● 非共振型超音波モータの周波数制御高効率駆動	山本	美山	伊藤	PMT
3	● 次世代半導体用サブ10nmパーティクル高精度検出手法の研究開発(ウェーハーデバイス上)	伊藤	有田	山本	レーザーテック
7	● レチクルフリー露光装置の自動アラインメントシステム開発	山本	刀根 今村	松川	ソニー
9	● インライン膜厚ムラ・検査技術	山本	刀根	清水	テクノス
1	● 次世代半導体用高誘電率絶縁超薄膜のインライン評価手法	ジャスティン	美山	松川	阪和電子
5	● フラール、a-Si 太陽電池のモビリティ測定TOF	ジャスティン	美山	松川	東京大学
4	● a-Si 太陽電池の高効率化	ジャスティン	美山	松川	富士電機システムズ
1	● .22nm世代半導体用MOS絶縁超薄膜の光伝導インライン評価手法	ジャスティン 小林	深	伊藤	阪和電子
3	● 次世代半導体用サブ10μmパーティクル高精度検出手法の研究開発(空間)	清水	有田 美山 今村 (真下)	山本	ソニー
3	● パリメタ温度TEGとウェーハーレベルパッケージ用バーンイン 手法の開発	吉岡 (濱口)	今村 (真下)	清水	J-DEVICE
3	● アトリットルポンプシステムの構築とその応用研究【休止】	休止	休止	休止	東京エレクトロン
医学教育部	講義(理論)、演習、実験、実習(実践Ⅰ・Ⅱ)、臨床実習(実践Ⅲ)、セミナーおよび学会発表等の授業形態をバランスよく組み合わせることにより、研究活動を行う上で必須の基礎知識から最新の知識まで習得し、新しい研究分野を開拓できる研究者を養成する基盤を整備している。実践科目では、きめ細かい個人指導による研究指導体制を整えている。				
保健学教育部	分野の特性に応じて、講義、演習、実習、実験をバランス良く組み合わせるなど、それぞれの教育内容に応じた学習指導法の工夫をしている。また、社会人学生に対しインターネットを利用した在宅学習を支援している。				
薬学教育部	<p>医療薬学専攻臨床薬学コースでは、社会が求める即戦力としての先導的薬剤師を養成するために、臨床現場における1年にとつたる実践的・先端的実習を実施する。また、専門的授業の受講、国内外での学会発表および国際専門雑誌への論文投稿等を推進する。さらに、国際化に対応できる即戦力としての人材養成目標にきめ細かく対応している。一方、医療薬科学コースでは、研究能力ならびに薬剤師としての職能の両者を育成するカリキュラムにより、臨床現場で学んだ知識や技能を活かした基礎研究者、開発研究者、CRCや大学等での教員や研究員を養成するのに必要な授業科目を設置している。</p> <p>創薬・生命薬科学専攻博士前期課程では、4コースの専門分野に特化した講義・演習・実習科目を履修する。また、博士後期課程では、自主的な問題設定・問題解決能力を身につけさせるため、博士論文に直結する実験に加えて、製薬企業あるいは大学・公的機関等における研究企画評価を想定した企画書・研究計画書の作成とプレゼンテーションならびに計画に即した研究の実行を課す「課題実習」を組み込んでいる。また、特許、市場調査、臨床開発に関する演習科目を設定し、医薬研究開発の全体像を理解させる。さらに、ベンチャー起業の方法と課題、大学教員に必要な心構えや効果的教育方法および大学経営について理解するための演習科目を設定し、課程修了後の進路の選択にも直結する内容を含むカリキュラムを編成している。</p> <p>学年歴および年間スケジュールは、薬学教育部ウェブサイトの中の「教育」に掲載されている。7月に行われる「九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修」は九州の薬学系国立三大学の大学院生が合宿し競い合うもので、主体的な学習へのモチベーションを高める取り組みである。また、学内LANは完備されており、無線LANも使用できる。履修指導は、毎年4月初めにガイダンスにより行われている。</p>				
法曹養成研究科	法学についての知識を持たない未修者に対する教育充実のため、1年次必修科目について、本研究科出身の若手弁護士による週1回の予習ゼミや担当教員による隔週での復習クラスを開設し、入学当初から繰り返しによる教育効果の向上を図っている。				

出典：各学部調査資料を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

本学の教育目標及び各研究科等の教育目的に基づき、分野の特性に応じて、講義・演習・実習・実験等を組み合わせて実施しており、また、それぞれの教育内容に応じて、社会文化科学研究科ではeラーニングを活用した遠隔学習による授業、薬学教育部では、臨床現場における1年にわたる実践的・先端の実習を実施するなどの学習指導法の工夫を行っている。

以上により、教育の目的に照らして、講義、演習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されていると判断する。

観点5-5-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点到る状況】

本学では、履修方法、単位の計算・認定方法等は、大学院学則第26条から第28条及び研究科等の規則に明示しており、学士課程同様に1年間の授業を行う期間が定期試験等の期間を含め35週確保されており、各授業が15週に渡る期間を単位として行われている【資料5-5-②-A、B】。

法曹養成研究科では、毎回の授業の積み重ねを徹底するために、学生が過度の履修登録を行って、無理な受講計画を立てることのないよう、学期ごとに履修科目登録の上限を設定している。また、進級要件及び修了要件にGPA制度を用いている【資料5-5-②-C】。

大学院の授業は、少人数【資料5-5-②-D】で行っており、シラバスに学習目標、授業計画、評価方法・基準等のほか、事前学習・事後学習について指示するとともに、オフィスアワー等において履修指導等を行っている。

大学院の事前学習・事後学習時間については、平成25年度実施の授業改善アンケートによると、平均で1時間未満が36.0%、1時間以上2時間未満が31.3%、2時間以上3時間未満が20.8%、3時間以上が11.9%と回答しており、2時間未満の学習時間は67.3%である【資料5-5-②-E】。授業時間外学習については、平成26年度に再構築したシラバスシステムでは全学的にシラバス様式を統一し、授業の目標などを明示するとともに、学生の自主学習を促すために事前学習・事後学習について入力することで学生の学習時間を確保し、単位の実質化に向けての取組が始まったところである【前掲資料5-2-②-F】。

資料5-5-②-A 履修方法及び単位の計算方法等

- ・大学院学則第26条から第28条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000190.htm>
- ・各研究科等規則：(例示) 大学院薬学教育部規則第5条から第9条：
<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000367.htm>

資料5-5-②-B 授業を行う期間 (自然科学研究科の例)

自然科学研究科 Graduate School of Science and Technology
平成27年度 学年暦カレンダー(曜日回数) 2015 Academic Year Calendar

休日(Holiday) ○ 授業日(Lecture day)

前学期 Spring Sem.							後学期 Fall Sem.						
日Sun	月Mon	火Tue	水Wed	木Thu	金Fri	土Sat	日Sun	月Mon	火Tue	水Wed	木Thu	金Fri	土Sat
4月 Apr.							10月 Oct.						
5	6	7	8	9	10	11	4	5	6	7	8	9	10
12	13	14	15	16	17	18	11	12	13	14	15	16	17
19	20	21	22	23	24	25	18	19	20	21	22	23	24
26	27	28	29	30			25	26	27	28	29	30	31
5月 May							11月 Nov.						
3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7
10	11	12	13	14	15	16	8	9	10	11	12	13	14
17	18	19	20	21	22	23	15	16	17	18	19	20	21
24	25	26	27	28	29	30	22	23	24	25	26	27	28
31							29	30					
6月 June							12月 Dec.						
7	8	9	10	11	12	13	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27	20	21	22	23	24	25	26
28	29	30					27	28	29	30	31		
7月 July							1月 Jan.						
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
26	27	28	29	30	31		24	25	26	27	28	29	30
8月 Aug.							2月 Feb.						
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
23	24	25	26	27	28	29	28	29					
30	31						3月 Mar.						
9月 Sep.							3月 Mar.						
6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30				27	28	29	30			

曜日計 月Mon. 16 火Tue. 16 水Wed. 16 木Thu. 16 金Fri. 16
 Total lecture days of each days
 実施日計 80
 Total lecture days
 7/14, 7/16, 7/17は補講日
 Supplementary lecture day: July 14, 16, 17

曜日計 月Mon. 16 火Tue. 16 水Wed. 16 木Thu. 16 金Fri. 16
 Total lecture days of each days
 実施日計 80
 Total lecture days
 10/2から後学期授業を開始する。 Fall semester lectures start from Oct. 2
 10/12, 11/23授業日とする。 Lectures will be held on Oct. 12, Nov. 23
 11/2, 11/4は紫熊祭のため休講予定。 No lectures (tatative) on Nov. 2, 4 as of KU festival
 2/16, 2/18は補講日 Supplementary lecture day: Feb. 16, 18

出典：熊本大学公式ウェブサイトより：http://www.gsst.kumamoto-u.ac.jp/bbs/file/h27_01.pdf

資料5-5-②-C GPA 制度を用いた修了要件 (法曹養成研究科の例)

4 修了要件

(1) 3年標準コース

3年標準コースにおいては、3年以上の在学期間内に必修科目 67 単位を含む合計 93 単位以上を修得し、かつ通算の成績が GPA 2.0 以上であることが必要です。通算の GPA が 2.0 未満であるが、1.8 以上である場合には、別に定める修了認定試験を受けることができ、これに合格すると修了が認められます。なお、3年次の成績は、GPA 1.8 以上でなければ修了要件を満たすことにはなりません。

(2) 2年短縮コース

2年短縮コースにおいては、2年以上の在学期間内に必修科目 41 単位を含む合計 67 単位以上を修得し、かつ通算の成績が GPA 2.0 以上であることが必要です。通算の GPA が 2.0 未満であるが、1.8 以上である場合には、別に定める修了認定試験を受け、これに合格すると修了が認められます。なお、3年次の成績は、GPA 1.8 以上でなければ修了要件を満たすことにはなりません。

(3) 学位

本法科大学院の課程を修了した者には、「法務博士(専門職)」の学位を授与します。

出典：法曹養成研究科学生便覧から抜粋

資料5-5-②-D 各授業の平均学生在籍数

各授業の平均学生在籍数(人)			
所属	時間割数 (A)	延履修者数 (B)	平均 (B)/(A)
教育学研究科	208	648	3.1(人)
社会文化科学研究科	440	1,678	3.8(人)
自然科学研究科	625	7,259	11.6(人)
医学教育部	197	1,692	8.6(人)
保健学教育部	80	313	3.9(人)
薬学教育部	151	731	4.8(人)
法曹養成研究科	72	489	6.8(人)

出典：熊本大学公式ウェブサイトから抜粋

資料5-5-②-E 大学院生における授業時間外学習

	上段：人数						合計
	教育学研究科	社会文化科学研究科	自然科学研究科	医学教育部	薬学教育部	法曹養成研究科	
3時間以上	2 1.7%	18 27.3%	136 7.8%	8 11.4%	4 8.9%	128 29.0%	296 11.9%
2時間以上3時間未満	12 10.0%	22 33.3%	316 18.2%	12 17.1%	10 22.2%	145 32.9%	517 20.8%
1時間以上2時間未満	29 24.2%	23 34.8%	589 33.9%	17 24.3%	13 28.9%	105 23.8%	776 31.3%
1時間未満	77 45.0%	3 4.5%	698 31.6%	33 18.6%	18 26.7%	63 12.5%	892 36.0%
合計	120 4.8%	66 2.7%	1739 70.1%	70 2.8%	45 1.8%	441 17.8%	2,481 100%

出典：2013 授業改善アンケート実施報告書を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

本学では、履修方法、単位の計算・認定方法等は、大学院学則及び研究科等の規則で定めており、学士課程同様に1年間の授業を行う期間が定期試験等の期間を含め35週確保されており、各授業が15週に渡る期間を単位として行われている。

また、履修科目登録の上限を設定、進級要件及び修了要件にGPA制度の利用、少人数での授業実施、シラバスシステムに学習目標、授業計画、評価方法・基準等のほか、事前・事後学習について指示することで、学生の学習時間を確保し、単位の実質化に向けて取り組むとともに、オフィスアワー等において履修指導を行っている。

以上により、単位の実質化への配慮がなされていると判断する。

観点5-5-③：適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点に係る状況】

平成24年度に全学で、平成25年度には各部局においてシラバスチェックを行い、シラバスの記載内容が一定の水準を保つことを担保するとともに、シラバスの改善に努め、平成26年度にシラバスシステムを再構築した。本システムは、全学的にシラバスの様式を統一し、本学公式ウェブサイトで公表しており、授業科目について、学習成果とその割合、授業の目的、概要、到達目標、評価方法・基準、各回の授業内容と事前学習・事後学習、

参考文献、オフィスアワー等が示されている。授業時間外の学習時間を促すための事前・事後学習については、学習内容をシステムにファイルアップロードができ、時間と場所を問わずいつでも学習できる仕組みとなっている【前掲資料5-2-③-B】。また、シラバスシステムについては、入学時のオリエンテーションで説明を行っている。

【分析結果とその根拠理由】

本学では、全学及び各部局のシラバスチェックの結果を踏まえて、各回の授業内容や到達目標、評価方法・基準、事前学習・事後学習内容等を充実させることで、シラバスシステムから学生の授業時間外の学習時間の増加につなげることができるようシラバスの記載内容の一定水準の確保ができるようにシラバスを改善し、本学公式ウェブサイトで公表し、学生には入学時のオリエンテーションで説明を行っている。さらに、各授業担当教員には確実な記述・入力のためのシラバス記入要領を提示している。

以上により、本学では、適切なシラバスが作成され、活用されていると判断する。

観点5-5-④： 夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例）を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点5-5-⑤： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点5-5-⑥： 専門職学位課程を除く大学院課程においては、研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて指導が行われているか。

【観点に係る状況】

本学では、専門職学位課程を除く大学院課程においては、研究指導、学位論文に係る基本方針は大学院学則で定め【前掲資料5-4-①-A】、指導の体制については、各研究科等の規則において定めている【資料5-5-⑥-A】。各研究科等とも学生ごとに主指導教員1人が指導に当たっており、自然科学研究科においては、主任指導教員を定めるとともに、学生ごとに研究指導委員会を置いている。社会文化科学研究科においては、学生の所属専攻の主指導教員、学生の研究テーマに関連の深い領域の教員を副指導教員とする複数指導教員制を採用しており、学際的及び複合的領域での研究を可能とし、きめ細かな研究・学習指導を行う体制をとっている。なお、研究倫理の指導として、平成26年度から医学教育部の博士課程及び修士課程においてeラーニングを活用した「研究者倫理」に関する教育プログラムを必修科目として実施しており、平成27年度には大学院教養教育プログラムとして「Research Ethics（研究倫理）」を開講している。また、平成27年4月から教員、大学院生を始め研究に携わる全構成員に対して、eラーニングによる研究者行動規範教育教材である Collaborative Institutional

Training Initiative Japan (CITIJapan) の受講を必須にしている。

また、大学院生を主とした学士課程教育における TA として、TA 研修会を受講後に教育補助業務に従事する機会を提供するとともに、TA を雇用する教員も TA に対して教育的効果の向上を目指した指導を行うため、平成 25 年度に熊本大学ティーチング・アシスタント取扱要項を作成した【資料 5-5-⑥-B】。【資料 5-5-⑥-C】は、実際に大学院生を TA として活用している教員数と TA 数を示しており、全部局で教材作成の補助や学生の理解度向上などに TA を活用している。

資料 5-5-⑥-A 指導体制について

研究科等名	研究科等規則
教育学研究科	(履修方法) 第 4 条 2 研究科委員会は、学生の研究指導を行うため、各学生ごとに指導教員を定める。 3 学生は、授業科目の履修に当たっては、指導教員の指導を受けるものとする。
社会文化科学研究科	(指導教員) 第 4 条 教授会は、学生の履修及び研究を指導するため、学生ごとに主任指導教員 1 人及び副指導教員 1 人又は 2 人を定める。
医学教育部	(履修方法等) 第 3 条 3 学生は、授業科目を選択する場合は、指導教員の指導を受けるものとする。
保健学教育部	(履修方法等) 第 5 条 3 学生が授業科目を選択する場合は、指導教員の指導を受けるものとする。
薬学教育部	(履修方法等) 第 5 条 4 学生が授業科目を選択する場合は、指導教員の指導を受けるものとする。
自然科学研究科	(主任指導教員) 第 4 条 教授会は、学生の研究指導を行うため、学生ごとに、主任指導教員 1 人を定める。 (研究指導委員会) 第 5 条 学生の指導を行うため、学生ごとに、研究指導委員会を置く。 2 研究指導委員会は、主任指導教員を含めて、研究科の教員 3 人以上をもって組織する。

出典：各研究科等規則から抜粋

資料 5-5-⑥-B 熊本大学ティーチング・アシスタント取扱要項

<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000835.htm>

資料5-5-⑥-C TA数とTAを活用する教員数及びTA活用にかかる報告

○TAを使用する教員数及びTA数				
	延べ人数		実数	
	TA	教員	TA	教員
文学部	20人	20人	20人	17人
教育学部	32人	36人	32人	27人
法学部	8人	8人	7人	6人
理学部	370人	404人	151人	55人
医学部医学科	39人	39人	39人	14人
医学部保健学科	29人	29人	29人	13人
薬学部	54人	54人	54人	191人
工学部	362人	374人	360人	114人
教養教育	158	158	83人	28
合計	1072人	1122人	775人	465人

平成26年度第5回FD委員会
(H27年3月16日開催)資料抜粋

平成25年度に制定した「熊本大学ティーチング・アシスタント取扱要項」及び「TAの役割と心得」に基づき、TA制度を運用した。授業担当教員から提出された「TA採用に係る授業実施報告書」及びTAから提出されたTAアンケートに基づき、平成26年度におけるTAの活用について概括した。

1. TAの業務内容

- ①授業準備
 - 資料、指導案等教材作成補助
 - 実験器具搬送等、教育用機器の準備
- ②授業時間内における業務
 - 出席確認
 - 資料配布
 - 教育用機器の操作等、講義、演習、実験、実習、実技の補助
 - 授業理解促進のための学生への助言・指導補助
- ③授業後の業務
 - 授業、実験等の片付け
- ④その他
 - 試験監督補助
 - レポート採点補助

2. TA研修会(TA研修会として行ったオリエンテーションも含みます。)の内容

- ①本学のTAとしての役割と心得についての説明
 - TAとしての自覚と役割及び学生への接し方等TA業務の注意点の説明
 - TAとして、授業づくりに参加する意義の説明
- ②授業科目に特有の知識・技能等に関する内容
 - 当該授業科目のTAとしての業務の説明
 - 実験・実習系の授業科目にあつては、対受講生だけではなく、TA自身の安全の説明

3. TAを採用したことにより実現した授業運用上の教育的効果

- ・授業の円滑な実施
- ・実験がうまくいかない、理解ができていない学生に、その場で指導し、学生の理解度が向上する。
- ・受講生に年齢的に近いTAの授業への参加による質問しやすい環境が整う。
- ・TAの意見聴取による、受講生にあつた使用教材等の作成。
- ・受講生の安全管理の向上
- ・教材作成補助等による教員の負担の軽減、これに伴う指導の質の向上
- ・試験監督の補助による、試験の円滑かつ適正な実施。

4. TA自身に与えることができた教育的効果

- ・受講生に指導することによる、自らの知識の再確認及び定着
- ・将来、教員・研究者になるためのトレーニング
- ・教員としての心構えの醸成

5. 改善・検討すべき課題

- ・TAを傍観者としてせず、積極的に授業に参加させ、より教育効果をあげる。
- ・TAに授業の改善案を提示させる等、TAの指導力の向上に資する。
- ・授業の準備・後片付けもTA自身のためになる反面、超過勤務になる。TA自身も担当教員から依頼があつた場合断りにくい。
- ・卒業前段階で日程等を定める必要があり、急な出張や休講の際の作業が非常に複雑。弾力的かつシステムティックな運用への検討が必要。
- ・教材作成等でTAの負担が過重にならないよう、TA予算の増加、TA配置の見直しが必要。
- ・TA間で、指導方法に大きな差が出ないような指導が必要である。

6. まとめ

TAを採用した授業担当教員は、「TAの役割と心得」に基づく本学の教育補助スタッフとしての心得について説明を行うとともに、各授業に必要な説明を行っている。これは、TAアンケートにおいて、本学のスタッフとしての自覚を持って業務に当たつたこと、授業担当教員から必要な説明を受けていることから裏づけられる。授業担当教員からは、TAを採用したことにより、授業の教育的効果が上がつているとともに、将来、教員になる人のトレーニングに資することも指摘されている。また、TAからは、人に教えることの難しさを感じた旨の意見があることから、教員に限らず、高度専門職業人としてコミュニケーション力の向上、リーダーシップ開発等、能力・資質の育成にも寄与する面もある。「授業改善のためのアンケート」においても、TAに助けられたとする意見がある一方で、TAが余つているような意見もある。TAの有効活用について検討するとともに、超過勤務にならないような配慮も必要と思われる。

なお、現時点における「TA採用に係る授業実施報告書」等の提出件数が少ない。TA制度の改善や本学の職員であるTAによる非違行為の禁止等につなげるためにも、所定の報告書等の提出等TA取扱要項に基づくTA制度の運用が確実に行われる工夫を行う必要がある。

出典：学務ユニット調査資料を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

専門職学位課程を除く大学院課程においては、研究指導、学位論文に係る基本方針は大学院学則で定め、指導の体制については各研究科等の規則において定めており、研究科によっては複数の指導教員体制を敷き、指導の充実を図っている。また、研究倫理に関する大学院での教育及び研究に携わる全構成員に対してeラーニングによるCITIJapanの受講を必須化した。さらに、TAに雇用された大学院生に対しては、学部及び大学院教育におけるきめ細かい指導の実現等の教育補助業務を経験する機会の提供により、教育力向上につながる指導を行っている。

以上により、専門職学位課程を除く大学院課程においては、研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて指導が行われていると判断する。

観点5-6-①： 学位授与方針が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

本学では、学位授与について学位規則第3条に定められ、修了要件については、大学院学則第44条から第47条に定められている。平成24年度には大学院課程である博士前期・修士・専門職及び博士後期・博士において、①高度な専門的知識・技能及び研究力、②学際的領域を理解できる深奥な教養力、③グローバルな視野と行動力、④地域社会を牽引するリーダー力の4つの知識と能力を柱として「人材育成並びに学位授与の方針」を策定した【資料5-6-①-A】。また、平成25年度には、大学院の各課程における各専攻、コース及び講座の単位で、学位授与の要件と修得すべき4つの知識と能力について「学位授与の方針」として策定している【資料5-6-①-B】。

資料5-6-①-A 大学院課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/daigakuin>

<博士前期・修士・専門職>

博士前期課程・修士課程・専門職大学院では、学士課程で築いた基礎の上に、地域や国際的なニーズにマッチした高度かつ専門的な教育・研究プログラムによって、以下の知識・能力を修得する。

○高度な専門的知識・技能及び研究力

学士課程教育の基盤の上に高度な知識をもち、生涯を通して学習を継続する力と知識を最新のものに更新する姿勢を示す。研究活動において、情報を駆使して、アイデアを発展させ、応用する創造力をもっている。

○学際的領域を理解できる深奥な教養力

高度で普遍性のある教養を身につけ、知識を統合する能力を有し、自らの知識や理解を適用する際の社会的、倫理的責任を考慮しつつ、複雑な課題を解決できる。

○グローバルな視野と行動力

現代社会が直面する課題の解決に挑戦するために、世界の多様な文化・歴史・制度を理解し、国際的に通用する専門知識・技能及び自らの考えをもち、それらを専門家に対しても、一般の人々にも、明確に伝えることができるコミュニケーション力を修得している。

○地域社会を牽引するリーダー力

自らの知識、技能、そして問題解決能力を、専攻分野及びより広い学際的な領域で発揮して、地域における指導的人材として活躍できる。

<博士後期・博士>

博士後期課程・博士課程では、学士課程、修士課程・博士前期課程において築いた知的基盤の上に、自主・自律の精神を尊重した教育・研究プログラムによって、以下の先導的な知識・能力を修得する。

○高度な専門的知識・技能及び研究力

専攻分野の体系的な知識とその分野の研究に必要な技術と方法を修得し、高い専門性を必要とする到達目標を設定し、深い洞察力と総合的な判断力をもって自律的な研究活動ができ、その成果を以て知識基盤社会に貢献できる。

○学際的領域を理解できる深奥な教養力

高度で普遍性のある教養を基盤とし、自らの知識や理解を研究に適用する際の社会的、倫理的責任を考慮しつつ、俯瞰的視野をもつ

て学術の新たな地平を切り拓く。
 ○グローバルな視野と行動力
 独創的な研究により、学問分野の先端知識を創造し、その成果を国内外に発表し、グローバル社会における知識の最前線の拡大に貢献できる。
 ○地域社会を牽引するリーダー力
 学術及び専門的な観点より、地域社会における産業、文化、教育、医療福祉などの振興に寄与する先端的研究者及び研究マインドをもつ高度な専門職業人として、地域社会のリーダーとなる。

出典：熊本大学公式ウェブサイトから抜粋

資料5-6-①-B 専攻等ごとの学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

研究科等名	学位授与方針
教育学研究科	
修士課程	
学校教育実践専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakukenyuuka/gakkoukyouiku
教科教育実践専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/kyouikugakukenyuuka/kyoukakyouiku
社会文化科学研究科	
博士前期課程	
公共政策学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/koukyouseisakugaku
法学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/hougaku
現代社会人間学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/gendai syakainingengaku
文化学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/bunkagaku
教授システム学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/kyou jyusi sutemugaku
博士後期課程	
人間・社会科学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/ningensyakaikagaku
文化学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/bunkagaku-kouki
教授システム学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/syabunken/kyou jyusi sutemugaku-kouki
自然科学研究科	
博士前期課程	
理学専攻	
物理学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/rigaku-buturikagaku
化学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/rigaku-kagaku
地球環境科学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/rigaku-tikyukankyokagaku
生命科学コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/rigaku-seimeikagaku
数学専攻	
基礎数理コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/suugaku-kisosuuri
応用数理コース	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/suugaku-ouyousuuri
複合新領域科学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/fukugousinryouikikagaku
物質生命化学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/bussituseimeikagaku
マテリアル工学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/material
機械システム工学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/kikaisystem
情報電気電子工学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/jyohodenkidensikougaku
社会環境工学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/syakaikankyokougaku
建築学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-zenki/kenti

		kugaku
博士後期課程		
理学専攻		
数理科学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/rigaku-suurikagaku
物理科学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/rigaku-buturikagakukouza
化学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/rigaku-kagakukouza
地球環境科学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/rigaku-tikyukankyokagakukouza
生命科学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/rigaku-seimeikagakukouza
複合新領域科学専攻		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/fukugousinryouikikagaku-kouki
産業創造工学専攻		
物質生命化学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/sangyosouzokougaku-busituseimeikagaku
マテリアル工学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/sangyosouzokougaku-materialkougaku
先端機械システム講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/sangyosouzokougaku-sentankikaisystem
機械知能システム講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/sangyosouzokougaku-kikaitinuousystem
情報電気電子工学専攻		
先端情報通信工学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/jyohodenkidensikougaku-sentanjyohotusinkougaku
機能創成エネルギー講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/jyohodenkidensikougaku-kinousouseienergy
人間環境情報講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/jyohodenkidensikougaku-ningenkankyojyoho
応用数理講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/jyohodenkidensikougaku-ouyousuuri
環境共生工学専攻		
広域環境保全工学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/kankyokyosei-kouikikankyohozen
社会環境マネジメント講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/kankyokyosei-syakaikankyo
人間環境計画学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/kankyokyosei-ningenkankyo
循環建築工学講座		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/sizenkagaku/sizenkagaku-kouki/kankyokyosei-jyunkankentiku
医学教育部		
修士課程		
医科学専攻		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/igakukyoubu/igakaku-syuusi
博士課程		
医学専攻		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/igakukyoubu/igaku-hakase
保健学教育部		
博士前期課程		
保健学専攻		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hokengakukyoubu/hokengaku-zenki
博士後期課程		
保健学専攻		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hokengakukyoubu/hokengaku-kouki
薬学教育部		
博士前期課程		
創薬・生命薬科学専攻		http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/yakugakukyoubu/souyakuseimeiyakagaku-zenki

博士後期課程	
創薬・生命薬科学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/yakugakukyoubu/souyakuseimeiyakku-agaku-kouki
博士課程	
医療薬学専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/yakugakukyoubu/iryoyuyakugaku-hakase
法曹養成研究科	
専門職学位課程	
法曹養成専攻	http://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/hosoyousei/housouyousei

【分析結果とその根拠理由】

本学では、平成 24 年度に 4 つの知識と能力を柱とした「人材育成並びに学位授与の方針」を策定し、平成 25 年度には、大学院課程の博士前期・修士・専門職及び博士後期・博士における各専攻、コース及び講座の単位で「学位授与の方針」を定めている。

以上により、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められていると判断する。

観点 5-6-②： 成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

本学において、成績評価基準は、大学院学則第 28 条の 2、研究科等規則に定めており、これらの規則等を学生便覧に収録することにより学生に明示するとともに、履修ガイダンス等において学生に周知している【資料 5-6-②-A】。秀、優、良、可の区分については偏在に留意することと、秀と優については、30%以内を目安にすることが合意できている【前掲資料 5-3-②-B】。また、個々の授業科目における評価方法・基準等は、各授業科目のシラバスに明示している【前掲資料 5-2-③-B】。成績評価、単位認定は、成績評価基準に従って実施し、各部局の教授会で附議している。

資料 5-6-②-A 成績評価について

大学院学則第 28 条の 2：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000190.htm>

医学教育部規則：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000353.htm>

（成績評価基準等の明示等）

第 28 条の 2 研究科又は教育部は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに 1 年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 研究科又は教育部は、学習の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

出典：熊本大学大学院学則から抜粋

【分析結果とその根拠理由】

本学において、成績評価基準は、大学院学則等に定めており、これらの規則等を学生便覧に収録することにより学生に明示するとともに、履修ガイダンス等において学生に周知している。また、個々の授業科目における評価方法・基準等は、各授業科目のシラバスに明示し、成績評価・単位認定は、成績評価基準に従って実施し、各部局の教授会で附議している。

以上により、成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されていると判断する。

観点 5-6-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

本学では、成績評価の厳格性や客観性を担保するために「厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について」を定め、これに従って成績評価等を行っている【前掲資料 5-3-②-B】。「厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について」において、全学教務委員会で絶対評価と相対評価についてのメリット・デメリットを議論した結果、絶対評価を基本とし、成績分布の著しい偏在に留意することとしている。また、授業担当教員からの成績発表の後、成績評価について異議がある学生は、質問及び疑問について書面等により受付し、担当教員からの説明を受けても解決が得られなかった場合に学部長に異議申立てができる制度を設けており、掲示及び学生便覧に掲載することにより学生に周知している【資料 5-6-③-A】。また、法曹養成研究科においては、同研究科規則第 8 条により、試験の結果、各年次における GPA がそれぞれ 1.8 に満たない学生は原級留置としている【資料 5-6-③-B】。

資料 5-6-③-A 成績評価に係る異議申し立ての告示（様式例）

告 示														
平成 年 月 日														
学生 諸君 へ														
〇〇 学部長・教養教育機構長														
<p>本学では、成績評価をより厳格に行う活動に取り組んでいます。 その一端として、従来にならい、質問や疑問がある場合は、下記により受け付けます。 また、それでは解決できなかったときは、新たに、異議申し立てを受け付けることとしましたので、お知らせします。</p>														
記														
【質問及び疑問の受付】														
履修した授業科目の成績評価について、当該授業担当教員に対する質問及び疑問を受け付けます。														
1. 期 間	平成 年 月 日（ ）から平成 年 月 日（ ）まで													
2. 場 所	当該授業担当教員研究室													
3. 方 法	口頭によります。													
【異議申し立ての受付】														
履修した授業科目の成績評価に異議がある場合は、次により申し立てを受け付けます。														
1. 期 間	平成 年 月 日（ ）から平成 年 月 日（ ）まで													
2. 場所・審議委員会等	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>受付担当</th> <th>審議委員会</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門教育の科目</td> <td>当該学部の教務担当</td> <td>当該学部の教務委員会</td> <td rowspan="2">必要に応じ、事情を聴取することがあります。</td> </tr> <tr> <td>教養教育の科目</td> <td>学務ユニット教養教育担当</td> <td>教養教育機構教務委員会</td> </tr> </tbody> </table>				受付担当	審議委員会	備考	専門教育の科目	当該学部の教務担当	当該学部の教務委員会	必要に応じ、事情を聴取することがあります。	教養教育の科目	学務ユニット教養教育担当	教養教育機構教務委員会
	受付担当	審議委員会	備考											
専門教育の科目	当該学部の教務担当	当該学部の教務委員会	必要に応じ、事情を聴取することがあります。											
教養教育の科目	学務ユニット教養教育担当	教養教育機構教務委員会												
3. 方 法	書面（別紙 1）の提出によります。													
【成績の確認、履修科目の追加登録・変更】														
① 成績に変更があった場合は、[]により必ず確認してください。														
② 成績が変更されたことに伴い、履修科目の追加登録や変更の必要性が生じた場合は、専門教育の科目については当該学部の教務担当、教養教育の科目については学務ユニット教養教育担当に相談してください。														

出典：学務ユニット調査資料を基に作成

資料5-6-③-B 法曹養成研究科における進級等の要件

法曹養成研究科規則第8条：<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/frame/frame110000406.htm>

(進級等の要件)

第8条 試験の結果、各年次におけるGPA（グレード・ポイント・アベレージ。授業科目ごとの成績を5段階で評価した上、それぞれにグレード・ポイントを付与して、単位当たりの平均を算出する方法をいう。以下同じ。）が、それぞれ1.8に満たない学生は原級留置とする。

出典：法曹養成研究科規則から抜粋

【分析結果とその根拠理由】

本学では、全学教務委員会において「厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について」を定め、可及び不可の判定は絶対評価、それ以上の成績については相対評価により成績評価等を行い、成績分布の著しい偏在に留意している。また、授業担当教員からの成績発表の後、成績評価について異議がある学生は、質問及び疑問の受付期間終了後、学部長に異議申立てができる制度を設けている。さらに、法曹養成研究科については、進級等の要件として各年次におけるGPAがそれぞれ1.8に満たない学生は原級留置としている。

以上により、成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられていると判断する。

観点5-6-④： 専門職学位課程を除く大学院課程においては、学位授与方針に従って、学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制の下で、修了認定が適切に実施されているか。

また、専門職学位課程においては、学位授与方針に従って、修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、修了認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

大学院の学位授与方針に従って、大学院学則第6章において各課程の修了及び学位について定められている。これに基づき学位論文については、本学学位規則及び各研究科等規則により、教授会の下に審査委員会を設け、評価基準については教授会等で定められ、本学公式ウェブサイト等で学生に周知されているとともに、その基準に従って、審査委員会等の審査体制の下で、最終的に教授会において審査委員会の審査報告に基づき修了認定が実施されている【資料5-6-④-A】。

また、法曹養成研究科（専門職学位課程）においては、学位授与方針に従って、研究科規則に修了要件を定め、本学公式ウェブサイトや学生便覧等において学生に周知されており、その基準に従って、修了認定が実施されている【資料5-6-④-B】。

資料5-6-④-A 学位論文の審査及び最終試験に関する評価基準（医学教育部及び薬学教育部の例）

医学教育部：http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/keijiban/images/shinsaki_jun_new_20140122.pdf

学位論文の審査及び最終試験に関する評価基準

（平成18年11月22日 大学院医学教育部教授会承認）
 （平成20年5月28日 大学院医学教育部教授会一部改正）
 （平成23年4月27日 大学院医学教育部教授会一部改正）
 （平成26年1月22日 大学院医学教育部教授会一部改正）

【博士課程】

学位申請には、学位論文（Thesis）と、本人が筆頭（第1）著者となっている関連論文1編以上の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文（Thesis）の審査基準

- 1) 単なる関連論文の写しや邦訳ではなく、研究の基礎となった文献的事実を含む研究の背景、研究の目的と基本的なストラテジー、詳細な実験方法、実験結果とその解釈、文献的考察を含む深い論考、研究の意義等に関する総括等について十分な論述がなされていること。
- 2) 学位論文の作成要領にしたがって作成されていること。

関連論文の認定基準

- 1) 医学教育部が定める「学位申請のための欧文雑誌」に登録された雑誌に掲載された欧文論文であること。
- 2) 学位論文（Thesis）に直接関わる内容を含み、その一部を構成すること。
- 3) 学位申請者が筆頭（第1）著者であること。申請者と他研究者との equal contribution による共著論文にあっては、論文中にそのことが明記されていれば共に第1著者とみなす。ただし、次項に定める場合を除き、他の著者が当該論文を学位論文の関連論文にしている場合は、これを学位申請のための関連論文とすることはできない。
- 4) 申請者と他研究者との equal contribution による共著論文であって、論文が掲載された学術誌の Impact Factor (IF) を共同第1著者の数で除した数値が、5.0 以上の場合、あるいは当該研究分野の上位 10% にランキングされている学術誌に発表されている場合、既に他の第1著者が関連論文として学位を取得していても、学位申請のための関連論文にすることができる。IF と該当学術雑誌の検索方法の詳細については、学位申請要領を参照のこと。
- 5) 関連論文における学位申請者の所属として、熊本大学が記載されていること。
- 6) 関連論文における共著者または謝辞に、熊本大学大学院医学教育部の研究指導者が含まれていること。
- 7) short communication の類を関連論文にする学位申請者は、投稿論文を事前に医学事務チーム教務担当へ提出すること。その後、内容について、大学院教育委員会が事前審査を行い、可否を決定する。

学位申請のための欧文雑誌の登録基準

- 1) 国外欧文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
- 2) 国内欧文雑誌については、欧文で作成された論文を投稿することが定められており、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
- 3) 上記の条件を満たせばオンライン形式の雑誌でも構わない。

最終試験の評価基準

最終試験は口述試問（公開発表）により行い、以下の基準により評価する。

- 1) 研究の内容について十分に理解し説明できること。
- 2) 研究の内容に関して提起される論点について論理的に考察できること。
- 3) 研究の将来的な展望について論述できること。
- 4) 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
- 5) 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。

薬学教育部：http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p12.html

医療薬学専攻 博士課程

■ 学位審査体制・修了要件

● 学位審査体制

学位申請には、博士論文と本人が筆頭著者（equal contributionも含む）になっている英語で書かれた公表論文（審査委員を置く学術雑誌に掲載済みまたは投稿中）1報以上の提出を必要とする。なお、投稿中である場合、受付を証明する書類と投稿論文1部を申請書類に添付すること。

（公表論文）

- ▶ 1) 少なくとも1報は、薬学教育部における学位申請のための学術雑誌の基準を満たした雑誌に掲載された欧文論文または投稿中の欧文論文原稿であること。
- ▶ 2) 論文原稿（学位論文、Thesis）に直接関わる内容を含み、その一部を構成すること。
- ▶ 3) 少なくとも1報は、学位申請者が筆頭著者であること。申請者と他研究者とのequal contributionによる共著論文にあっては、論文中にそのことが明記されていれば共に第一著者とみなす。ただし、他の著者が当該論文を学位論文の関連論文にしている場合は、これを学位論文とすることができない。

（薬学教育部における学位申請のための学術雑誌の基準）

- ▶ 1) 国外欧文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
- ▶ 2) 国内欧文雑誌については、欧文で作成された論文を投稿することが定められており、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
- ▶ 3) 国内和文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。

（最終試験（論文発表））

学位申請者は、薬学教育部教授会が指定した日に、論文発表を行う。論文発表会は、審査委員長が司会を行い、発表時間は20分、質問時間は20分とする。なお、発表会の進行（ライト、計時、マイク、プロジェクター等）は当該分野で行うこととし、配布用の論文要旨のコピーを当該分野の責任で予め用意すること。

審査委員会の構成は次の通りとする。

- ▶ 1) 教授会は、その構成員のうちから3人以上の審査委員を選出して審査委員会を設ける。ただし、教授会が必要と認めるときは、当該教授会を置く教育部の専任の准教授又は講師（研究指導教員に限る。）を選出することができる。
- ▶ 2) 教授会は、学位申請者の所属する専攻の専任教員から審査委員長を選出する。
- ▶ 3) 教授会は、前項に規定する審査委員に他の研究科若しくは教育部又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を加えることができる。
- ▶ 4) 学位論文の実質的な指導教員は、原則として審査委員会に加わらないものとする。

（最終試験の評価基準）

学位申請者は、教育部教授会が指定した日に論文内容について、以下の基準により評価する。

- ▶ 1) 研究内容の獨創性・目的等について十分に理解し、論理的かつ明瞭に説明できること。
- ▶ 2) 研究内容に関して提起される論点についての確かつ論理的に考察できること。
- ▶ 3) 研究の将来的な展望について論述できること。
- ▶ 4) 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
- ▶ 5) 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。
- ▶ 6) 発表態度が適切であり、発表時間を順守すること。

出典：熊本大学公式ウェブサイトから抜粋

資料5-6-④-B 修了認定基準

○法曹養成研究科

4 修了要件

(1) 3年標準コース

3年標準コースにおいては、3年以上の在学期間内に必修科目67単位を含む合計93単位以上を修得し、かつ通算の成績がGPA2.0以上であることが必要です。通算のGPAが2.0未満であるが、1.8以上である場合には、別に定める修了認定試験を受けることができ、これに合格すると修了が認められます。なお、3年次の成績は、GPA1.8以上でなければ修了要件を満たすことにはなりません。

(2) 2年短縮コース

2年短縮コースにおいては、2年以上の在学期間内に必修科目41単位を含む合計67単位以上を修得し、かつ通算の成績がGPA2.0以上であることが必要です。

通算のGPAが2.0未満であるが、1.8以上である場合には、別に定める修了認定試験を受け、これに合格すると修了が認められます。なお、3年次の成績は、GPA1.8以上でなければ修了要件を満たすことにはなりません。

(3) 学位

本法科大学院の課程を修了した者には、「法務博士（専門職）」の学位を授与します。

出典：法曹養成研究科学生便覧から抜粋

【分析結果とその根拠理由】

大学院の学位授与方針に従って、大学院学則において修了及び学位について定められており、本学学位規則等に基づき、学位論文を審査するため、教授会の下に審査委員会を設けている。学位論文にかかる評価基準については、教授会等で定められ、本学公式ウェブサイト等で学生に周知されているとともに、その基準に従って、審査委員会の審査体制の下で、最終的に教授会において修了認定が実施されている。

また、法曹養成研究科（専門職学位課程）においても学位授与方針に従い、研究科規則に修了要件を定め、本学公式ウェブサイトや学生便覧等において学生に周知されており、その基準に従って、修了認定が実施されている。

以上により、専門職学位課程を除く大学院課程においては、学位授与方針に従って、学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制の下で、修了認定が適切に実施されている。また、専門職学位課程においては、学位授与方針に従って、修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、修了認定が適切に実施されていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 学部・大学院で、カリキュラム編成の方針、学位授与の方針が明文化されている。
- 学習の段階や履修の順序を整理してより体系的に教育課程を理解できるようにし、学生の授業時間外の学習時間を増加させるため、シラバスを改善し、科目ナンバリングのコード体系を構築している。
- 文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」事業など多くの事業が採択され、「学習成果に基づく学士課程教育」の構築の端緒となるとともに、種々の教育内容に応じた教育改革を実施している。
- 従来のリベラルアーツとしての英語教育にとどまらず、新たな英語教育を検討するための基礎資料とするため、平成25年度入学生から「TOEIC-IPテスト」を入学当初及び2学年末の2回実施している。
- 本学では、「厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について」を定め、これに従って成績評価等を行っている。また、成績分布の著しい偏在に留意している。さらに、授業担当教員からの成績発表の後、成績評価について異議がある学生は、担当教員に書面で質問することができ、解決が得られなかった場合には、学部長に異議申立てができる制度を設けている。

- 平成 24 年度に文科省の「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」において、グローバルかつローカルに様々な課題を解決できるグローバルな次世代リーダーの育成を行っている。また同年に「大学間連携共同教育推進事業」に採択された「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」においては、熊本県内 4 大学が連携し、各大学の特徴を活かした減災型地域社会のリーダーを養成している。さらに、平成 26 年度からは、少子高齢化が進む中、減災型地域社会の継続的な実現に向け、能動的学習能力と実践力を兼ね備えた人財の育成を行うこと、多元的な価値への理解力、柔軟な思考力及び鳥瞰的に事物を把握する力を有し、高度な知的基盤領域において新機軸を切り拓く力を備えた人材を育成することなどを目的とする大学院教養教育プログラムを導入している。
- 大学院生を主として学士課程教育における TA として、TA 研修会を受講後に教育補助業務に従事する機会を提供するとともに、TA を雇用する教員も TA に与える教育的効果を意識して指導を行なうため、平成 25 年度に熊本大学ティーチング・アシスタント取扱要項を作成している。

【改善を要する点】

- 授業の特性を踏まえて、アクティブ・ラーニングの導入を促進し、教育の質的転換を図る必要がある。
- グローバル化がさらに加速する中、外国語によるコミュニケーション能力や海外の文化・日本文化に係る能力・知識を学生に修得させるため、初年次教育も含めた熊本大学としてのリベラル・アーツ教育を確立するとともに、TOEIC や TOEFL 等の活用も含めた新たな英語教育の構築が必要である。